



QuickTime 7.1

ユーザーズガイド

QuickTime Pro の使いかたに関する
情報が書かれています

Mac OS X バージョン 10.3.9 以降、
Windows XP および Windows 2000 用

🍏 Apple Computer, Inc.
© 2006 Apple Computer, Inc. All rights reserved.

本書の一部あるいは全部を Apple Computer, Inc. から書面による事前の許諾を得ることなく複製複製（コピー）することを禁じます。また、製品に付属のソフトウェアは同梱のソフトウェア使用許諾契約書に記載の条件のもとでお使いください。

Apple ロゴは米国その他の国で登録された Apple Computer, Inc. の商標です。キーボードから入力可能な Apple ロゴについても、これを Apple Computer, Inc. から書面による事前の許諾なしに商業的な目的で使用すると、連邦および州の商標法および不正競争防止法違反となる場合があります。

本書には正確な情報を記載するように努めました。ただし、Apple Computer, Inc. は誤植や誤記に関する責任を負いません。

Apple
1 Infinite Loop
Cupertino, CA 95014-2084
U.S.A
www.apple.com

アップルコンピュータ株式会社
〒163-1480 東京都新宿区西新宿 3 丁目 20 番 2 号
東京オペラシティタワー
www.apple.com/jp

Apple、Apple ロゴ、AppleScript、Final Cut Pro、FireWire、iMovie、iPod、iTunes、Mac、Mac OS、Macintosh、QuickDraw、および QuickTime は、米国その他の国で登録された Apple Computer, Inc. の商標です。Finder および Tiger は、Apple Computer, Inc. の商標です。Apple Store は、米国その他の国で登録された Apple Computer, Inc. のサービスマークです。.Mac は Apple Computer, Inc. のサービスマークです。

Intel および Intel Core は、米国その他の国における Intel Corp. の商標です。

PowerPC™ は、IBM Corp. からのライセンスに基づき使用される IBM Corp. の商標です。

本書に記載の他社商品名は参考を目的としたものであり、それらの製品の使用を強制あるいは推奨するものではありません。また、Apple Computer, Inc. は他社商品の性能または使用につきましては一切の責任を負いません。

本製品はドルビーラボラトリーズによる使用許諾に基づき製造されました。「ドルビー」、「Pro Logic」、およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。非公開機密著作物。© 1992-1997 Dolby Laboratories, Inc. All rights reserved.

J019-0665/04-28-06

目次

序章

- 6 QuickTime へようこそ
- 6 QuickTime とは
- 6 QuickTime Pro とは
- 7 QuickTime 7 の新機能
 - 7 QuickTime Player の新機能
 - 8 QuickTime Pro の新機能
- 9 システムの要件
- 9 QuickTime がサポートするファイルの種類
- 10 QuickTime の新しいバージョンを確認する
- 10 画面上のヘルプを使用する
- 10 追加情報の入手先

第 1 章

- 11 **QuickTime Player を使用する**
 - 11 ファイルを開く／再生する
 - 11 QuickTime Player でムービーを開く／再生する
 - 12 Web ブラウザでファイルを開く／再生する
 - 15 QuickTime バーチャルリアリティ (QTVR) ムービーを表示する
 - 16 静止イメージを表示する
 - 16 MIDI ファイルを再生する
 - 17 最近使用したファイルを開く
 - 17 QuickTime の「よく使う項目」(Windows では「お気に入り」) を使ってムービーをすばやく検索する
 - 17 コピー防止されているムービーを再生する
 - 18 ファイルに関する情報を見る
 - 18 再生をコントロールする
 - 18 オーディオとビデオの設定を調整する
 - 18 再生の環境設定を変更する
 - 19 ムービーの再生サイズを変更する
 - 20 ムービーを繰り返し再生する
 - 20 複数のムービーを同時再生する
 - 20 テキスト・トラック内のテキストを検索する
 - 20 ユーザが QuickTime の設定を変更することを禁止する

第 2 章

- 21 QuickTime Pro をお使いになる前に
- 21 QuickTime Pro を入手する
- 21 詳細な再生オプションを使用する
 - 21 ムービーをフルスクリーンで表示する
 - 22 ムービーを 2 番目のディスプレイで再生する
 - 23 ムービーをスライドショーとして表示する
 - 23 ムービーの周囲の色を変更する
 - 23 再生をスムーズにするためにムービーを RAM にロードする
- 24 フレーム番号とタイムコードを使用する
 - 24 フレーム番号、ムービー時間、またはタイムコードを表示する
 - 24 フレームまたはタイムコードでムービー内を移動する
- 25 ムービーおよびその他のメディアを作成する
 - 25 ビデオとオーディオを記録する
 - 26 ムービーの保存について
 - 26 インターネットからムービーを保存する
 - 27 静止イメージからスライドショーまたはアニメーションを作成する
 - 28 ムービーから静止イメージを作成する
 - 28 ファイルを QuickTime ムービーに変換する
 - 28 メールまたは Web でムービーを共有する

第 3 章

- 29 QuickTime Pro を使って編集する／作成する
- 29 簡単な編集
 - 29 ムービーの一部を選択する／再生する
 - 30 ムービーの一部をカットする／コピーする／削除する
 - 30 2 つの QuickTime ムービーを 1 つにする
 - 31 トラックを操作する
 - 31 使用するトラックを切り替える
 - 31 トラックを取り出す／追加する／移動する
 - 32 オーディオトラックを操作する
 - 33 複数のムービーを同じフレームに表示する
 - 34 グラフィックスとテキストをムービーにペーストする
 - 34 テキスト・トラックを操作する
 - 36 個別のトラックの言語を指定する
 - 37 ムービーのプロパティを変更する
 - 37 ムービーに注釈を追加する
 - 37 ムービーのサイズを変更する／ムービーを反転させる／ムービーを回転させる
 - 38 ビデオマスクを使ってムービーの形状を変更する
 - 38 トラックの透明度を変更する
 - 38 ムービーのチャプタリストを作成する
 - 40 ムービーのポスターフレームを設定する
 - 40 ムービーを特定の再生設定で保存する
 - 41 ムービーコントローラの種類を変更する

第 4 章	42	QuickTime Pro を使ってファイルを書き出す
	42	ビデオとオーディオの圧縮について
	43	プリセットを使用してファイルを書き出す
	43	書き出し設定をカスタマイズする
	43	ビデオの書き出し設定をカスタマイズする
	45	QuickTime ムービーに特殊効果とフィルタを追加する
	45	イメージ (フレーム) サイズを変更する
	46	サウンドの書き出し設定をカスタマイズする
	46	インターネット配信用のムービーを準備する
	47	ムービーをファストスタート用に準備する
	47	ムービーをリアルタイム・ストリーミング用に準備する
	48	リファレンスムービーを作成して Web 再生を最適化する
	48	MPEG-4 ファイルを書き出す
	49	MPEG-4 ビデオの書き出しオプション
	50	MPEG-4 オーディオの書き出しオプション
	50	MPEG-4 ストリーミングの書き出しオプション
	50	3G ファイルを書き出す
	51	3G ファイルフォーマットの書き出しオプション
	52	3G ビデオの書き出しオプション
	53	3G オーディオの書き出しオプション
	53	3G テキストオプション
	53	3G ストリーミングオプション
	54	3G 詳細オプション
付録	55	ショートカットとヒント
	55	QuickTime Player のキーボードショートカット
	56	QuickTime Pro のキーボードショートカット
	56	AppleScript で QuickTime Player を自動化する
	57	Windows で QuickTime Player を自動化する
用語集	58	
索引	61	

QuickTime へようこそ

ハードディスク内またはインターネット上にあるムービーを再生することをお望みですか？「QuickTime Player」を使えば、簡単に実行できます。

QuickTime とは

「QuickTime Player」は、無償のマルチメディアプレーヤーです。「QuickTime Player」を使って、ビデオ、オーディオ、静止イメージ、グラフィックス、バーチャルリアリティ（VR）ムービーなど、さまざまなファイルを表示できます。QuickTime は、ニュース、スポーツ、教育、映画の予告編、およびその他のエンターテインメントのためにインターネットで最もよく使用されている形式に対応しています。

QuickTime は、ほかのアプリケーションが活用可能なマルチメディア・アーキテクチャでもあります。アップルの iTunes、iMovie、Final Cut Pro などのよく使用されているソフトウェアや、多くの他社製プログラムには、重要なマルチメディア機能として QuickTime のアーキテクチャを使用しているものもあります。これらのアプリケーションが正しく機能するためには、QuickTime がインストールされている必要があります。

QuickTime Pro とは

QuickTime Pro を購入すれば、多くの便利な機能を QuickTime ソフトウェアに簡単に追加できます。QuickTime Pro では、次のことができます：

- ムービーをフルスクリーンで再生する
- インターネットからファイルを保存する
- オーディオとビデオを編集する
- オーディオ（Macintosh と Windows）とビデオ（Macintosh のみ）を記録する
- 特殊効果を追加する
- スライドショーを作成する
- ビデオ、オーディオ、およびイメージを百以上の標準形式に変換し、保存する

QuickTime Pro の使用を始める方法については、21 ページの「QuickTime Pro を入手する」を参照してください。

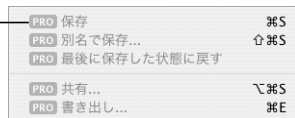
QuickTime 7 の新機能

無償の「QuickTime Player」と QuickTime Pro には、両方とも多くの新機能が用意されています。

QuickTime Player の新機能

- H.264 ビデオに対応。この最新の標準ベースのコーデックでは、3G から HD、さらにはそれ以上の範囲で、最低のデータレートで非常にすぐれた品質のビデオが提供されます。
- 再生しながらリサイズ。「QuickTime Player」のウィンドウサイズを変更しても、再生がスムーズに続行されます。(いくつかのハードウェア要件を満たすことが必要な場合があります。)
- 設定不要のストリーミング。「QuickTime 環境設定」(Mac OS X) または「QuickTime 設定」(Windows) でインターネット接続の速度を設定する必要がなくなりました。QuickTime では、コンピュータに最適な接続速度を自動的に判別します。ストリーミング中に接続が失われた場合は、QuickTime が自動的にサーバに再接続します。
- サラウンドサウンド。「QuickTime Player」では、最高 24 チャンネルまでの音声を再生可能です。QuickTime 7、お使いの Mac、サラウンド用スピーカーがあれば、サラウンドサウンドに対応したムービーやゲームのすべてのサラウンド効果をお楽しみいただけます。
- より簡単になった、新しい再生コントロール機能。最適な状態で視聴できるように設定を調整するには、新しい「A/V コントロール」ウィンドウを使います。簡単に操作できる項目には、ジョグシャトル、再生速度、低音、高音、バランスなどの設定があります。
- すべてが新しいコンテンツガイド。デザインを一新した QuickTime コンテンツガイドにより、インターネット上のエンターテインメントの最新情報が提供されます。
- Spotlight と相性の良いメディア。Mac OS X v10.4 では、Spotlight を使用して QuickTime のコンテンツを簡単に検索することができます。Spotlight を使うと、アーティスト、著作権、コーデックなどのムービー属性を検索できます。
- スクリーン読み上げ機能に対応。Mac OS X v10.4 に搭載された VoiceOver を使えば、視覚障害を持つ方が「QuickTime Player」の各機能を楽しむことができます。(言語によっては使用できない場合があります。)
- QuickTime Pro への簡単なアクセス。無償の「QuickTime Player」を使用するときは、QuickTime Pro でのみ利用可能な機能には、名前に「Pro」と表示されます。いずれかの項目を選択すると、機能の説明が表示され、QuickTime Pro の購入方法が分かります。(QuickTime Pro を購入するには、QuickTime Pro のインストール先のコンピュータを使用してインターネットに接続している必要があります。)

「QuickTime Pro」へのアップグレード後に、「Pro」用のメニュー項目が使用可能になります。



QuickTime Pro の新機能

QuickTime 7 Pro のユーザになれば、「QuickTime Player」が持つ優れた機能のすべてが使えるようになるだけでなく、次のような QuickTime Pro の新機能も楽しむことができます：

- フローティングコントロール。フルスクリーンモードでは、DVD のようなフローティングコントロールが提供され、一時停止、再生、早送り、巻き戻しなどの機能に簡単にアクセスできるようになりました。マウスを動かすと、コントローラがフルスクリーン画面に数秒間表示されます。
- H.264 ビデオの作成。このコーデックは、ビデオのすべてのエンコーディングに使用します。HD (High Definition) から 3G (モバイル機器用) まで、さまざまなサイズのコンテンツを作成します。
- サラウンドオーディオの作成。マルチチャンネルオーディオをムービーに追加することにより、豊かなマルチメディア体験を顧客に提供します。サラウンドスピーカーのない顧客がいても心配いりません。QuickTime では、各ユーザのスピーカー設定に応じて自動的にオーディオをミックスします。
- 並行書き出し。複数のファイルを一度に書き出し、別の再生や編集の作業と並行して続けることができます。Macintosh コンピュータと Windows コンピュータの両方で利用できるようになりました。
- 改良されたムービー編集機能。インポイントおよびアウトポイント用のショートカットキーを使用することで、編集作業が非常に簡単になりました。また、「ムービーのプロパティ」インターフェイスが完全に再設計され、簡単で効率的なムービーオーサリングができます。
- AAC の新しい安定品質モード。安定した高音質再生のために、ビットレートではなく音質を一定に維持するよう最適化された AAC オーディオファイルを作成できます。
- 3G ストリーミング。ほかの 3G ストリーミングハンドセットや配信アーキテクチャと完全に相互運用可能な、RTSP ストリーミング用の 3G ファイルを作成します。
- フレームとタイムコードの表示。タイムコードごと、またはフレーム番号ごとにムービー時間を表示し、ムービー内のどのフレームにも簡単にジャンプできます。
- アパーチュアの適合。ムービーのアパーチュアモードを表示し、ピクセルの形状など、新しいアパーチュア設定にムービーを適合させることができます。
- ソースビデオのデインターレース処理。「ムービーから QuickTime ムービー」オプションを使って書き出すときに、「書き出しサイズの設定」(Mac OS X) または「エクスポートサイズの設定」(Windows) でオプションを設定して、ビデオをデインターレース処理できるようになりました。

Macintosh 用の新機能

すでに説明した新機能に加えて、Mac OS X用の QuickTime Pro には次のような機能があります：

- 映像の記録。Mac にデジタル・ビデオ・カメラを接続すれば、ビデオポストカードをすばやく作成して、家族や友人と共有できます。
- ムービーの共有。メールで送信したり、Web サイトで使用したりするムービーを簡単に作成できます。

- Automator への対応。Mac OS X v10.4 Tiger では、「Automator」の使いやすいインターフェイスを利用して、QuickTime で行う定型作業の効率を向上させることが可能です。QuickTime 7 Pro には、QuickTime ユーザだけが使用できる QuickTime 用の Automator アクションが用意されており、キャプチャを開始および停止する、ヒントムービーを書き出す、トラックを使用可能にするなどの作業を簡単に自動化できます。「Automator」と QuickTime 7 Pro を使用すれば、自分だけの QuickTime 用 Automator アクションを作成することもできます。

システムの要件

Mac OS コンピュータの場合：

- 400 MHz 以上の G3 PowerPC ベースまたは Intel ベースの Macintosh コンピュータ
- 128 MB 以上の RAM
- Mac OS X バージョン 10.3.9 以降

Windows コンピュータの場合：

- Pentium プロセッサベースの PC または互換コンピュータ
- 128 MB 以上の RAM
- Windows 2000 または Windows XP

QuickTime がサポートするファイルの種類

QuickTime を使って、数十種類のメディアを開く（読み込む）ことができます。QuickTime では、以下のフォーマットを開くことができます：

- ビデオフォーマット：MOV、MPEG-1、MPEG-2、¹ MPEG-4、3GPP、3GPP2、JPEG、DV、Motion JPEG、AVI、MQV、H.264
- オーディオフォーマット：AIFF/AIFC、Audio CD、CAF、MOV、MP3、MPEG-4、AU、WAV、iTunes オーディオ
- 静止画フォーマット：BMP、GIF、JPEG/JFIF、JPEG 2000、PDF、MacPaint、PICT、PNG、Photoshop（レイヤーを含む）、SGI、Targa、FlashPix（レイヤーを含む）、TIFF（レイヤーを含む）
- アニメーションフォーマット：Animated GIF、FLC、Flash、PICS
- その他のフォーマット：KAR（Karaoke）、MIDI、QuickDraw GX、QuickTime イメージファイル、QuickTime VR、テキスト

サポートされている全フォーマットのリストについては、QuickTime の Web サイトの「製品」セクションを参照してください。

「QuickTime Player」でファイルを開けるかどうかを確認するには、「ファイル」>「ファイルを開く」と選択して、開きたいファイルを選択します。このとき選択できるファイルのみ読み込むことができます。

¹ Apple Store オンラインで別途販売されている QuickTime MPEG-2 再生コンポーネントを使うと MPEG-2 を再生できます。一部のファイルフォーマットにはさまざまな種類のオーディオおよびビデオを含めることができるため、特定のファイルフォーマットのオーディオおよびビデオをすべて QuickTime で再生できるとは限りません。

QuickTime の新しいバージョンを確認する

アップルでは QuickTime の新しいバージョンを随時リリースしています。インターネットに接続した状態で「QuickTime Player」を使用している場合、QuickTime の新しいバージョンが入手可能になると、そのことを知らせるメッセージが表示されます。お使いのコンピュータには常に最新バージョンのソフトウェアをインストールしておくことをお勧めします。

QuickTime の新しいバージョンを確認するには (Mac OS X を使用している場合)、「QuickTime Player」>「既存のソフトウェアを更新」と選択します。Windows の場合は、「編集」>「設定」>「QuickTime 設定」と選択し、「更新」を選択します。

画面上のヘルプを使用する

QuickTime が開いた状態で「ヘルプ」>「QuickTime Player ヘルプ」と選択して、タスクの実行方法を表示できます。

追加情報の入手先

QuickTime について詳しくは、以下を参照してください。

- 最新の QuickTime コンテンツリスト。「QuickTime Player」には、QuickTime コンテンツの最新の情報のガイドが含まれています。最新のニュース、エンターテインメント、教育関係の記事などを見ることができます。また、オーディオプログラムを聴くこともできます。コンテンツガイドを表示するには、「QuickTime Player」を開いて、「ウインドウ」>「コンテンツガイド」と選択します。また www.apple.com/jp/quicktime/ も参照してください。
- QuickTime に関するニュース。QuickTime のコンテンツと製品に関する最新のニュースについては、www.apple.com/jp/enews/ で QuickTime ニュースレターにサインアップしてください。
- チュートリアルとヒント。手順ごとのチュートリアル、関連する書籍や CD については、www.apple.com/jp/quicktime/resources/ を参照してください。
- ディスカッションリスト。QuickTime 用の多数のディスカッションリストのいずれかにサインアップすると、メッセージを投稿したり、アイデアや情報を交換したり、QuickTime の最新の開発状況を確認したりできます (www.apple.com/jp/quicktime/resources/)。
- 開発者のサポート。QuickTime を使用した製品開発に関心をお持ちであれば、developer.apple.com/quicktime/ をご覧ください。
- テクニカルサポート。利用可能なすべてのサポート情報を確認するには、www.apple.com/jp/support/ を参照してください。

この章では、「QuickTime Player」の基本的な使いかたについて説明します。

ファイルを開く／再生する

「QuickTime Player」や Web ブラウザで QuickTime ムービーを開いて再生できます。

QuickTime Player でムービーを開く／再生する

「QuickTime Player」を使って、コンピュータのハードディスク、CD、DVD、またはインターネットに保存されているメディアを再生できます。

ハードディスク、CD、またはDVD上のムービーを開くには、以下のいずれかの操作を実行します：

- 「Finder」（または「Windows Explorer」）で、ファイルをダブルクリックするか、「QuickTime Player」のアプリケーションアイコンにドラッグします。
- 「ファイル」>「ファイルを開く」と選択し、ファイルを選択します。
- 「Dock」の「QuickTime Player」アイコンにファイルをドラッグします（Mac OS X のみ）。

インターネット上のムービーを開くには、「QuickTime Player」を開き、「ファイル」>「URL を開く」と選択して、ムービーファイルの URL（インターネットアドレス）を入力します。



「QuickTime Player」には、CD プレーヤーや DVD プレーヤーにあるものと同様の画面上のコントロールがあります。このコントロールを使って、QuickTime ムービーの再生、一時停止、巻き戻し、早送り、先頭または末尾へのジャンプ、および音量の調整を行います。このコントロールを使って、ムービーを送ったり戻したりすることもできます。

ムービーの特定のポイントに移動するには、タイムライン上の再生ヘッド（小さな黒い三角形）をドラッグします。フレームを 1 つずつ見るには、最初に小さな黒い三角形をクリックしてから、キーボードの右矢印キーまたは左矢印キーを押します。

一部のムービーには、ムービーの特定のポイントに移動するために使用可能なチャプタリストが含まれています。ムービーにチャプタリストが含まれている場合は、タイムラインとイコライザの間にポップアップメニューが表示されます。

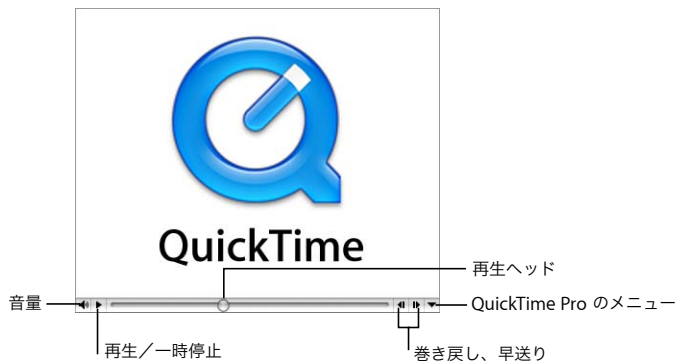


ウィンドウの右下隅のハンドルをドラッグして、表示スペースのサイズを変更できます。

Web ブラウザでファイルを開く／再生する

QuickTime プラグイン（無料の QuickTime ソフトウェアの一部）を使えば、インターネット上にあるほとんどの種類のマルチメディアをお使いの Web ブラウザで再生することができます。一部の Web サイトでは、ムービーが自動的に再生されます。また、Web サイトによっては、ムービーのイメージをクリックしたり、「再生」ボタンをクリックしたりして、ムービーを再生する必要があります。

通常は、Web ページでムービーの再生が始まると、ムービーの再生、一時停止、早送り、巻き戻し、および音量調節に使用できるコントロールが表示されます。



ムービーを Web ブラウザで再生するには、Web サイトにアクセスし、ムービーを見るためのサイトの指示に従います。

QuickTime Pro には、ムービーをハードディスクに保存するためのオプションもあります（ムービーの作成者が許可している場合）。ムービーを Web から保存するには、右側の下向き矢印をクリックし、「QuickTime ムービーとして保存」を選択するか、QuickTime Pro のメニューから「ファイルを保存」を選択します。RTSP（Real-Time Streaming Protocol）ムービーの場合は、インターネット上の実際のムービーを指す小さい「リファレンスマービー」として保存されます。

QuickTime の Web サイトには、最新の映画の予告編など、Web ブラウザで表示できる QuickTime ムービーが多数あります。www.apple.com/jp/quicktime/ にアクセスしてください。

インターネットムービーの再生環境設定を調整する

インターネット上のムービーを見る場合、自動的にムービーの再生が開始されます。ただし、再生を開始する前にムービー全体をハードディスクにダウンロードして、都合の良いときにムービーを見ることもできます。

ムービーの再生が始まる前にムービーをダウンロードするには（Mac OS X の場合）：

- 1 「QuickTime Player」 > 「QuickTime 環境設定」と選択して、「ブラウザ」をクリックします。
- 2 「ムービーを自動的に再生」を選択解除します。

ムービーの再生が始まる前にムービーをダウンロードするには（Windows の場合）：

- 1 「編集」 > 「設定」 > 「QuickTime 設定」と選択します。
- 2 「ブラウザ」を選択します。
- 3 「ムービーを自動的に再生」を選択解除します。

Web サイト上でムービーやイメージを見るたびにダウンロードしなくても済むように、QuickTime ではキャッシュと呼ばれる記憶領域にこれらのファイルを保存できます。ムービーやイメージを複数回見る場合は、その項目をキャッシュすることでパフォーマンスが改善されます。視聴するインターネット上のムービーやイメージを QuickTime でキャッシュするには、「ディスクキャッシュに保存」を選択します。ハードディスクにキャッシュを割り当てるための十分な空き領域が存在しない場合や、セキュリティ上の理由でデータをキャッシュファイルに保存したくない場合は、このオプションを選択しないでください。

ムービーのキャッシュサイズの設定を変更して、キャッシュの最大サイズを指定できます。キャッシュの最大サイズは、ハードディスクの空き領域に依存します。キャッシュサイズを大きくするとより多くの（またはより大きい）ファイルを保存できますが、ハードディスク内の領域がより多く占有されます。

QuickTime がキャッシュ用に予約された領域をすべて使用した場合は、新しい項目が追加されると古い項目が自動的にキャッシュから削除されます。キャッシュを消去するには、「ダウンロードキャッシュを空にする」をクリックします（Windows の場合は、「QuickTime 設定」で「ダウンロードキャッシュ」を選択し、「キャッシュを空にする」をクリックします）。セキュリティやプライバシーのため、またはハードディスクの空き領域を確保するために、キャッシュを消去できます。

お使いのインターネット接続でサポートされる最高品質の QuickTime コンテンツを取得できるように、QuickTime はインターネットへの接続速度を自動的に検出します。ただし、インターネットで視聴しているムービーが適切に再生されない場合は、接続速度の設定を変更することで良い結果が得られる場合があります。

Mac OS X で接続速度の設定を変更するには、「QuickTime 環境設定」を開いて、「ストリーミング」をクリックします。Windows の場合は、「QuickTime 設定」を開いて、「接続速度」を選択します。

QuickTime は、選択した接続速度に合わせて作成されたムービーの再生を試みます。実際の接続速度よりも遅い速度を選択すると、再生されるムービーは、お使いの接続で実際にサポートされるムービーよりもサイズが小さく、品質の低いものになります。

実際の接続よりも速い速度を選択すると、お使いの接続で対応できる量よりも送信されるデータが多くなるため、QuickTime の再生がつかまったり、ぎくしゃくしたりすることがあります。

接続速度が分からない場合は、インターネット・サービス・プロバイダ (ISP) に確認してください。

接続速度の設定を変更した後で、QuickTime が速度を自動的に検出するように設定を戻す場合は、「ストリーミング速度」ポップアップメニューから「自動」を選択します (Mac OS X の場合)。

Windows でインターネット接続の速度を設定するには、「編集」>「設定」>「QuickTime 設定」と選択して、「接続速度」を選択します。

インスタントオン

QuickTime には、ストリーミングビデオを表示するときのバッファ (待ち) 時間を大幅に短縮するインスタントオン機能が含まれています。インスタントオン機能により瞬時の表示が可能になります。ファイルがハードディスク内に存在するかのよう、ビデオ内をすばやく移動できます。

インスタントオン機能を利用するにはブロードバンドの接続環境が必要です。インスタントオン機能の操作性は、利用可能な帯域幅、コンテンツのサイズやデータレートなどによって異なります。また、ストリーミングビデオの圧縮に使われるコーデックによって異なることもあります。

インスタントオン機能は、デフォルトで入になっています。ストリームビデオで問題が発生した場合は、待機時間を変更する (「再生」スライダをドラッグする) か、インスタントオン機能を切にする (Mac OS X では「QuickTime 環境設定」、Windows では「QuickTime 設定」を開いて、「ストリーミング」をクリックする) ことができます。

ファイアウォールの背後でストリームファイルを表示する

QuickTime ストリーミングは、ユーザの必要性にあわせて最適なプロトコル (インターネットを介した通信方式) を選択します。通常 QuickTime ストリーミングでは、最適なパフォーマンスを確保するために RTSP (Real-Time Streaming Protocol) を使用します。ネットワーク接続がファイアウォールで保護されている場合は、HTTP プロトコルを使用してもかまいません。

HTTP ストリーミングを使用するには (Mac OS X の場合) :

- 1 「QuickTime Player」で、「QuickTime Player」>「QuickTime 環境設定」と選択します（または、「システム環境設定」を開き、「QuickTime」をクリックします）。
- 2 「詳細」をクリックします。
- 3 「トランスポート設定」ポップアップメニューから「カスタム」を選択します。
- 4 「トランスポートプロトコル」ポップアップメニューから「HTTP」を選択します。

HTTP ストリーミングを使用するには (Windows の場合) :

- 1 「QuickTime Player」で、「編集」>「設定」>「QuickTime 設定」と選択します。
- 2 「詳細」を選択します。
- 3 「トランスポート設定」ポップアップメニューから「カスタム」を選択します。
- 4 「トランスポートプロトコル」ポップアップメニューから「HTTP」を選択します。

QuickTime 自体をファイアウォール用に設定できる場合は、これでストリーミング QuickTime ムービーを見ることができます。まだ問題が残っている場合は、ネットワーク管理者に連絡するか、アップルの QuickTime の Web サイト (www.apple.com/jp/quicktime/) を確認してください。

処理するファイルタイプ (MIME 設定) を増やす/減らすように QuickTime を設定する

インターネットからファイルをダウンロードする際、各ファイルに MIME タイプが割り当てられて、ファイルの種類が指定されます。お使いのブラウザは、どのプラグインを使用して各種種類のファイルを表示するかを管理します。

QuickTime では、さまざまなファイルタイプを表示できます。QuickTime で処理可能なファイルタイプを増やしたり減らしたりするには、MIME タイプの設定を編集します。リストの編集時に下の手順に従って「デフォルトを使用」(Mac OS X の場合) または「既定値を使用」(Windows の場合) をクリックすると、デフォルトのリストに戻ることができます。

Mac OS X で MIME 設定を編集するには、「QuickTime 環境設定」を開いて「詳細」をクリックします。Windows の場合は、「編集」>「設定」>「QuickTime 設定」と選択し、「ブラウザ」を選択して、「MIME 設定」をクリックします。

QuickTime バーチャルリアリティ (QTVR) ムービーを表示する

QTVR ムービーは、ユーザが対話できる 3 次元の場所 (パノラマ) とオブジェクトを表示します。QTVR パノラマでは、ユーザがシーンの中において、任意の方向に最大 360 度見渡しているかのように操作できます。オブジェクトの QTVR ムービーでは、オブジェクトをどの方向にでも回転させることができます。

QTVR ムービーをパンするには、シーン内でカーソルをドラッグします。ズームインまたはズームアウトするときは、「+」ボタンか「-」ボタンをクリックします。(ボタンが表示されない場合は、Shift キーを押してズームインし、Control キーを押してズームアウトします。)

QTVR ムービーによっては、シーン間（またはノード間）の移動ができるホットスポットがあるものもあります。マウスをホットスポットの上に移動すると、カーソルが矢印に変わります。シーン内のあるノードから別のノードにジャンプ可能なすべての場所を表示するには、「ホットスポットを表示」ボタン（中に疑問符がある矢印）をクリックします。現在表示されている VR シーン内に、ホットスポットの半透明の青いアウトラインが表示されます。（ホットスポットがない場合は、このボタンを押しても何も実行されません。）ホットスポットをクリックすると、新しいシーンにジャンプします。

シーンを 1 つずつ戻すには、「戻る」ボタンをクリックします。（「戻る」ボタンは QTVR ムービーウインドウだけで表示されるもので、すべての QuickTime ムービーウインドウで表示されるわけではありません。）

静止イメージを表示する

静止イメージを「QuickTime Player」で表示することができます。「ファイル」>「ファイルを開く」と選択してファイルを選択するか、ファイルを「Dock」内の「QuickTime Player」にドラッグします（Mac OS X のみ）。

Mac OS X：「プレビュー」を使って静止イメージをほかのフォーマットに変換できます（「プレビュー」はハードディスクの「アプリケーション」フォルダにあります）。QuickTime Pro を使って多くの種類のファイルを変換することもできます。詳しくは、28 ページの「ファイルを QuickTime ムービーに変換する」を参照してください。

Windows：QuickTime Pro をお持ちの場合は、PictureViewer を使って、さまざまなタイプの静止画ファイルフォーマットの読み込みや書き出しを行ったり、画像を回転させたりできます。PictureViewer は、ハードディスクの「QuickTime」フォルダにあります。

MIDI ファイルを再生する

「QuickTime Player」は、MIDI（Karaoke MIDI、Standard MIDI、General MIDI）フォーマットを読み込むことができます。MIDI ファイルを開くには、「ファイル」>「ファイルを開く」と選択し、ファイルを選択します。

QuickTime では、内蔵のシンセサイザを使って MIDI ファイルを再生します。内蔵シンセサイザの代わりに、外部のシンセサイザを使うように QuickTime を設定することもできます。

別のシンセサイザを指定するには（Mac OS X の場合）：

- 1 「システム環境設定」を開いて、「QuickTime」をクリックし、「詳細」をクリックします。
- 2 「ベストシンセサイザ」ポップアップメニューから必要なシンセサイザを選択します。

別のシンセサイザを指定するには（Windows の場合）：

- 1 「編集」>「設定」>「QuickTime 設定」と選択します。
- 2 「オーディオ」をクリックします。
- 3 「既定のミュージックシンセ」ポップアップメニューから必要なシンセサイザを選択します。

最近使用したファイルを開く

最近使用したファイルは簡単に開くことができます。

最近使用したファイルを開くには：

- 「ファイル」 > 「最近使った項目を開く」 > 「[オプション]」と選択します。

「最近使った項目を開く」サブメニューに表示される項目の数を変更するには（Mac OS X の場合）、「QuickTime Player」 > 「環境設定」と選択し、「一般設定」をクリックして、「最近使った項目の数」ポップアップメニューからオプションを選択します。Windows の場合は、「編集」 > 「設定」 > 「Player 設定」と選択します。

QuickTime の「よく使う項目」（Windows では「お気に入り」）を使ってムービーをすばやく検索する

QuickTime の「よく使う項目」ウインドウ（Mac OS X の場合）または「お気に入り」ウインドウ（Windows の場合）では、ポインタを移動するだけでムービーを簡単に検索して開くことができます。よく使う項目のリストを表示するには、Mac OS X では、「ウインドウ」 > 「よく使う項目」 > 「よく使う項目を表示」と選択します。Windows の場合は、「ウインドウ」 > 「お気に入り」 > 「お気に入りを表示」と選択します。

ムービーを「よく使う項目」リスト（Windows では「お気に入り」リスト）に追加するには：

- 1 「QuickTime Player」でムービーを開きます。
- 2 Mac OS X では、「ウインドウ」 > 「よく使う項目」 > 「よく使う項目にムービーを追加」と選択します。Windows では、「ウインドウ」 > 「お気に入り」 > 「お気に入りにムービーを追加」と選択します。

「よく使う項目」リストウインドウにファイルをドラッグすることもできます。

リスト内のムービーの配置を変更するには、ムービーをドラッグします。リストから項目を削除するときは、項目を「ゴミ箱」にドラッグするか、項目を選択して Delete キーを押します。（Windows の場合は、項目を「ごみ箱」にドラッグするか、項目を選択して Backspace キーを押します。）「よく使う項目」リスト（Windows では「お気に入り」リスト）から項目を削除しても、そのファイルはハードディスク（またはファイルが保存されている場所）から削除されません。

コピー防止されているムービーを再生する

QuickTime ムービーは暗号化することができ、許可された視聴者のみが表示することができます。このようなムービーは「保護されたメディアファイル」として知られています。このようなファイルを使うときは、「メディアキー」を入力する必要があります。通常、メディアキーはメディアファイルの提供者から入手できます。

メディアキーを入力するには（Mac OS X の場合）：

- 1 「システム環境設定」を開いて、「QuickTime」をクリックし、「詳細」をクリックします。
- 2 「メディアキー」をクリックします。
- 3 「追加」ボタンをクリックして、作成者または販売業者から提供されたキーを入力します。

メディアキーを入力するには (Windows の場合) :

- 1 「編集」 > 「設定」 > 「QuickTime 設定」と選択します。
- 2 「詳細」をクリックします。
- 3 「メディアキー」をクリックします。
- 4 「追加」をクリックして、作成者または販売業者から提供されたキーを入力します。

ファイルに関する情報を見る

「QuickTime Player」では、再生時の圧縮フォーマット、サイズ、フレームレートなど、QuickTime ファイルのさまざまな情報を表示できます。

ファイルに関する情報を見るには :

- 1 ファイルを開きます。
- 2 「ウインドウ」 > 「ムービーの情報を表示」と選択します。

QuickTime Pro では、「ウインドウ」 > 「ムービーのプロパティを表示」と選択することにより、ムービーの追加情報を表示できます。ムービーのプロパティについて詳しくは、37 ページの「ムービーのプロパティを変更する」を参照してください。

再生をコントロールする

ムービーの再生バランス、速度、サイズ、および QuickTime Player ウインドウを表示するかどうかなどの再生オプションを変更できます。また、特定のコンピュータで再生するためにムービーを最適化することもできます。

オーディオとビデオの設定を調整する

オーディオトラックを含む QuickTime ムービーについて、左右のバランスのほか、音量、低音レベル、および高音レベルを調整できます。任意のムービーについて、速度や再生レート（ジョグシャトル）などの再生オプションを設定することもできます。

オーディオおよびビデオのコントロールを設定するには :

- 1 「ウインドウ」 > 「A/V コントロールを表示」と選択します。
- 2 スライダをドラッグして設定を調整します。

「QuickTime Player」の環境設定で、その他の再生オプション（複数のムービーの同時再生、別のアプリケーションを使用しているときのムービー再生など）を使用できます。「QuickTime Player」の環境設定を開くには (Mac OS X の場合)、「QuickTime Player」 > 「環境設定」と選択します。Windows の場合は、「編集」 > 「設定」 > 「Player 設定」と選択します。詳しくは、「再生の環境設定を変更する」を参照してください。

再生の環境設定を変更する

Mac OS X では「QuickTime Player」 > 「環境設定」と選択して、再生の環境設定を変更できます。Windows では、「編集」 > 「設定」 > 「Player 設定」と選択します。次に、使用可能なオプションを示します :

- 「新しい Player でムービーを開く」： 選択すると、新しいプレーヤーウィンドウでムービーを開きます。選択を解除すると、現在のプレーヤーウィンドウのムービーを新しいムービーに置き換えます。
- 「ムービーを開いたときに自動的に再生」： 選択すると、すべてのムービーについて、開いたときに再生を開始します。選択を解除すると、「再生」 ボタンをクリックしたときにムービーを開始します。
- 「可能な場合は高品質ビデオ設定を使用」： 選択すると、ビデオの画質が鮮明になってより滑らかに再生されますが、プロセッサの使用量が増えます。
- 「Player が一番手前に表示されているときだけサウンドを再生」： 選択すると、1つの QuickTime Player ウィンドウ (アクティブなウィンドウ) でのみオーディオを再生します。選択を解除すると、再生中のすべてのムービーのサウンドを再生します。
- 「バックグラウンドで実行されているときにサウンドを再生」： 選択すると、QuickTime が最前面のアプリケーションでない場合でもオーディオを再生します。選択を解除すると、QuickTime がアクティブなアプリケーションでないときはオーディオを消音します。
- 「イコライザを表示」 (Windows では「グラフィックスイコライザを表示」)： 選択すると、QuickTime Player ウィンドウにイコライザ (オーディオの存在を示します) を表示します。選択を解除すると、隠します。
- 「コンテンツガイドを自動的に表示」 (Windows では「起動時にコンテンツガイドを表示」)： 選択すると、最初に「QuickTime Player」を開いたときに最新のコンテンツリストを表示します (特定のムービーファイルを開くときを除きます)。
- 「ユーザを切り替える前にムービーを一時停止」 (Windows では「ユーザを切り替える前にムービーを一時停止」)： 選択すると、ファストユーザスイッチを使って別のの人にコンピュータを使用させるときに、ムービーを自動的に一時停止します。
- 「何も選択していないときに選択範囲表示を隠す」： 選択すると、フレームが選択されていないときにタイムラインの選択範囲表示を隠します。

QuickTime Pro では、さらにほかのオプションも使用できます。その他のオプションについて詳しくは、21 ページの「ムービーをフルスクリーンで表示する」および 25 ページの「記録オプションを設定する」を参照してください。

ムービーの再生サイズを変更する

「QuickTime Player」には、ムービーの再生サイズを変更するためのオプションがいくつか含まれています。QuickTime Pro には追加の再生オプションがあり、QuickTime Player ウィンドウまたはその他のウィンドウやデスクトップではなく、ムービーのみが表示されるように画面を設定できます。これは「フルスクリーンモード」と呼ばれます (Windows では「全画面表示モード」と呼びます)。

ムービーの再生サイズを変更するには、「表示」 > 「[サイズ]」と選択するか、ウィンドウの右下隅のサイズ変更コントロールをドラッグします。いずれかの方向にムービーを広げるには、Shift キーを押したままドラッグします (縦横比は変わります)。

ムービーをデフォルトのサイズと縦横比に戻すには、コマンドキーを押しながら 1 キーを押します (Windows の場合は、Alt キーを押しながら 1 キーを押します)。

QuickTime Pro では、ムービーをフルスクリーンで表示することもできます。詳しくは、21 ページの「ムービーをフルスクリーンで表示する」を参照してください。

ムービーを繰り返し再生する

ムービーを繰り返し再生できます。ムービーが終了すると、自動的に再生を再度開始します。

ムービーを繰り返すには：

- 「表示」 > 「再生の繰り返し」と選択します。

QuickTime Pro では、「表示」 > 「再生/逆再生の繰り返し」と選択することにより、ムービーの再生と逆再生を繰り返すこともできます。

複数のムービーを同時再生する

複数の QuickTime Player ムービーを同時に開くことができます。

複数の QuickTime Player ウィンドウを開くには、以下のいずれかの操作を実行します：

- 別のムービーファイルをダブルクリックします。
- 「表示」 > 「すべてのムービーを再生」と選択します。

デフォルトでは、複数の QuickTime Player ウィンドウを開くと、オーディオはアクティブな（最前面の）QuickTime Player ウィンドウでのみ再生されます。この設定の変更方法について詳しくは、18 ページの「再生の環境設定を変更する」を参照してください。

テキスト・トラック内のテキストを検索する

ムービーによっては、タイトル、クレジット、字幕、セクション見出しなどのテキストが含まれます。ムービー内のテキストを検索して、たとえば、ムービー内の特定のフレームを見つけることができます。

QuickTime ムービー内のテキストを検索するには：

- 1 「編集」 > 「検索」 > 「検索」と選択します。

このコマンドが使用できない場合は、ムービーにテキスト・トラックは含まれていません。

- 2 「検索」ダイアログで、検索対象のテキストを入力し、「次へ」をクリックします。

ユーザが QuickTime の設定を変更することを禁止する

共有の設定（kiosk など）でコンピュータを使用している場合、ユーザが QuickTime の設定を変更したり、インターネットからムービーを保存したりすることを禁止できます。

共有コンピュータで使用するよう QuickTime を設定するには（Mac OS X の場合）：

- 1 「システム環境設定」を開いて、「QuickTime」をクリックし、「詳細」をクリックします。
- 2 「kiosk モードを使用」を選択します。

共有コンピュータで使用するよう QuickTime を設定するには（Windows の場合）：

- 1 「編集」 > 「設定」 > 「QuickTime 設定」と選択します。
- 2 「ブラウザ」を選択します。
- 3 「kiosk モードを使用」を選択します。

QuickTime Pro の詳細な再生オプションの使用方法、ムービーポストカードの作成方法、およびこれらをメールや Web で共有する方法について説明します。

QuickTime Pro を入手する

QuickTime Pro を入手するには、QuickTime Pro のメニュー項目を選択して「今すぐ購入」をクリックするか、「QuickTime Player」>「QuickTime Pro を購入」（Mac OS X の場合）または「ヘルプ」>「QuickTime Pro を購入」（Windows の場合）と選択します。

QuickTime Pro をインストールするコンピュータを使用して、インターネットに接続している必要があります。新しいオプションを使用可能にするには、「QuickTime Player」の再起動が必要になることがあります。

詳細な再生オプションを使用する

QuickTime Pro には、ムービーのフルスクリーン表示、2 番目のディスプレイでのムービー再生など、多数のムービー再生オプションが存在します。

ムービーをフルスクリーンで表示する

QuickTime Pro では、QuickTime Player ウィンドウ、デスクトップ、またはその他のウィンドウではなく、ムービーだけが表示されるようにスクリーンを設定できます。この表示設定は「フルスクリーンモード」と呼ばれます。（半分のサイズ、2 倍のサイズ、またはその他のサイズで再生するようにムービーを設定することも可能です。）

ムービーをフルスクリーンで再生するには、以下のいずれかの操作を実行します：

- 「表示」>「フルスクリーン」（Mac OS X の場合）または「全画面表示」（Windows の場合）と選択します。
- 「表示」>「ムービープレゼンテーション」と選択して「フルスクリーン」（Mac OS X の場合）または「全画面表示」（Windows の場合）を選択し、「再生」をクリックします。

フルスクリーンモードを終了するには、Esc キーを押します。

すべてのムービーをフルスクリーンで再生するようにオプションを設定することもできます。たとえば、ムービーのコントロールを隠したり、隠すまでの表示時間を変更したりできます。Mac OS X でこれらのオプションを設定するには、「QuickTime Player」 > 「環境設定」と選択して、「フルスクリーン」をクリックします。Windows でこれらのオプションを設定するには、「編集」 > 「設定」 > 「Player 設定」と選択して、「全画面表示」をクリックします。

参考：「QuickTime Player」の環境設定で「フルスクリーン・コントロールを表示」（Mac OS X の場合）、または「Player 設定」の「全画面表示のコントロールを表示」（Windows の場合）が選択されている限り、ポインタを移動することにより、非表示のコントロールを表示することができます。

ムービーを作成する場合は、常にフルスクリーンで開くようにムービーを保存できます。詳しくは、40 ページの「ムービーを特定の再生設定で保存する」を参照してください。

ムービーを 2 番目のディスプレイで再生する

QuickTime Pro をお使いで、デュアルディスプレイがサポートされており、2 台のディスプレイが設置してある場合、1 台のディスプレイでムービーを再生し、もう 1 台でほかのアプリケーションを使用することができます。この配置はプレゼンテーションの際に便利です。

Mac OS X：「ディスプレイをミラーリング」が選択されていないことを確認します。（「システム環境設定」を開いて、「ディスプレイ」をクリックし、「調整」をクリックします。「調整」ボタンが表示されない場合は、お使いのコンピュータではこの機能をサポートしていません。）

Windows：ムービーを 2 番目のディスプレイで再生できるかどうかは、お使いのコンピュータとモニターによって決まります。「画面」コントロールパネルを開き、「設定」をクリックして、2 番目のディスプレイが有効になっていることを確認します。有効になっていない場合は、2 番目のディスプレイをクリックして、「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」が選択されていることを確認します。

ムービーを 2 番目のディスプレイで再生するには：

- 1 「QuickTime Player」でムービーを開きます。
- 2 「表示」 > 「ムービープレゼンテーション」と選択します。
2 台のディスプレイは並んで表示され、1 台にはメニューバーが含まれています。ムービーが再生されるディスプレイには「Q」が表示されます。ムービーをもう一方のディスプレイで再生するには、それをクリックします。
- 3 ポップアップメニューからオプションを選択します。
「QuickTime Player」のコントロールを表示せずにムービーを再生するには、「フルスクリーン」（Mac OS X の場合）または「全画面表示」（Windows の場合）を選択します。
- 4 「ムービー」モードまたは「スライドショー」モードを選びます。
スライドショーモードでは、マウスをクリックするか、右矢印キーまたは左矢印キーを押して、フレームを進めることができます。
- 5 「再生」をクリックします。

ムービーの再生中に、ほかのアプリケーションを開くことができます。ほかのアプリケーションをアクティブにするには、コマンドキーを押しながら Tab キーを押します (Windows の場合は、Alt キーを押しながら Tab キーを押します)。これで、ムービー再生中に、ほかのアプリケーションでマウスとキーボードを使用することができます。

ムービーが終了する前にムービーを停止するには、コマンドキーを押しながら Tab キーを押して (Windows の場合は、Alt キーを押しながら Tab キーを押して) 「QuickTime Player」をアクティブにし、マウスをクリックします。

フルスクリーンモードでは、すべての QuickTime ムービー再生用キーボードショートカットを使用できます。

ムービーをスライドショーとして表示する

スライドショーでは、視聴者がクリックすると次のフレームに進みます。QuickTime Pro を使うと、スライドショーとして再生するようにムービーを設定できます。

ムービーをスライドショーとして再生するには：

- 1 「表示」 > 「ムービープレゼンテーション」と選択します。
- 2 「スライドショー」をクリックし、「再生」をクリックします。
- 3 スライドショーを進めるには、マウスをクリックするか、左矢印キーまたは右矢印キーを押します。

ムービーの周囲の色を変更する

デフォルトでは、フルスクリーンモードで再生するムービーの境界の画面領域は黒ですが、別の色に変更できます。

ムービーの境界色を変更するには：

- 1 「表示」 > 「ムービープレゼンテーション」と選択します。
- 2 ポップアップメニューの右側のカラーボックスをクリックし、「カラー」から色を選択します。

複数のディスプレイを使用している場合は、「すべてのスクリーンで背景色を表示」を選択することで、この色をすべてのディスプレイに (ムービーを再生するディスプレイだけでなく) 表示できます。

再生をスムーズにするためにムービーを RAM にロードする

QuickTime には、再生の処理速度を向上させるために使用できる 2 つのメモリ (RAM) オプションが用意されています。「プリロード」は、再生の前にムービー全体をメモリに読み込みます。「キャッシュ」は、再生後にムービーデータをメモリ内に保持します。このオプションは、小さなファイルを繰り返し再生するときに役立ちます。

QuickTime Pro では、QuickTime ムービーのトラックのメモリオプションを調整できます。

トラックのメモリオプションを調整するには：

- 1 「ウインドウ」 > 「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 2 調整したいトラックを選択し、「その他の設定」をクリックします。

- 3 トラックをメモリに読み込むには、「このトラックをあらかじめ読み込む」を選択します。
- 4 トラックデータをメモリ内に保持するには、「キャッシュ」を選択します。

これらのオプションは、トラックに含まれるデータ量が非常に少ない場合だけ使用してください。メモリにあまりにも多くのデータを読み込むと、処理速度が低下したり、システムエラーが起きたり、予測できない結果になったりする可能性があります。

フレーム番号とタイムコードを使用する

QuickTime Pro では、「QuickTime Player」でムービーを表示するときに、現在のムービー時間やフレーム番号を表示できます。また、ムービーにタイム・コード・トラックがある場合は、SMPTE タイムコードを表示できます。（「Final Cut Pro」など、アプリケーションによっては、取り込み中にタイムコードが自動的に追加されます。）

フレーム番号、ムービー時間、またはタイムコードを表示する

「QuickTime Player」のタイムラインの横の領域に、現在のムービーの時間情報が表示されます。

- 1 時間表示の領域をクリックします。
- 2 表示されるポップアップメニューからオプションを選択します。
 - 「標準」： ムービー時間を HH:MM:SS 形式で表示します。
 - 「タイムコード」： ムービーのタイムコードを HH:MM:SS: フレーム形式で表示します。ムービーの 1 秒当たりのフレーム数によって、タイムコードまたはドロップフレーム・タイム・コードが表示されます。時間表示のフレーム部分のコロンは、ノンドロップ・タイム・コードが表示されていることを示します。セミコロンは、ドロップフレーム・タイム・コードを示します。ムービーにタイム・コード・トラックがある場合は、そのタイム・コード・トラックが使用されます。タイム・コード・トラックがない場合、タイムコードは、ムービーの開始時に 00:00:00:00 から計算されます。
 - 「フレーム番号」： ムービーの開始時に 0 から増分されるフレーム番号を表示します。時間表示の領域の「f」は、フレームカウントが表示されていることを示します。

フレームまたはタイムコードでムービー内を移動する

QuickTime Pro では、特定のフレーム番号またはタイムコードを入力して、ムービー内のポイントにジャンプできます。

- 時間表示をダブルクリックしてから、矢印キーを押すか、新しい時間またはフレーム番号を入力します。
- 時間表示全体を選択するには、領域をダブルクリックするか、領域をクリックしてからコマンド + A キー（Macintosh の場合）または Ctrl + A キー（Windows の場合）を押します。

参考：時間を入力するには、各単位をピリオドで区切ります。たとえば、5.02.10 と入力すると、5 分 2 秒の 10 フレームに移動します。5 分 0 秒と 10 フレームに移動するには、5.10 と入力します。

ムービーおよびその他のメディアを作成する

QuickTime Pro では、さまざまな方法でムービーを作成できます。

ビデオとオーディオを記録する

ビデオカメラと Macintosh コンピュータがあれば、QuickTime Pro を使ってムービーを記録できます。QuickTime Pro は、アップルの iSight、デジタルビデオカメラ、一部の Web カメラなど、ほとんどの FireWire 対応ソースからビデオを取り込むことができます。Macintosh コンピュータまたは Windows コンピュータでは、内蔵マイクまたは外部マイクを使ってオーディオを記録することもできます。

QuickTime Pro を使用してオーディオまたはビデオを記録するには：

- 1 カメラまたはマイクをコンピュータに接続します（内蔵マイクを使用しない場合）。
- 2 QuickTime Pro で、「ファイル」>「新規ムービー録画」（または「ファイル」>「新規オーディオ録音」）と選択します。

プレビューウィンドウが表示され、記録を開始する前に、カメラ位置、照明、オーディオレベルなどの設定を調整できます。

- 3 記録を開始するには、ウィンドウの下部にある「録音」ボタンをクリックします。
- 4 記録を停止するには、ボタンをもう一度クリックします。

また、Option キーを押しながら「録音」ボタンをクリックすると、記録を一時停止したり再開したりできます。Option キーを押すと、記録を中止できます。

記録したムービーは QuickTime のムービーウィンドウに表示されます。デフォルトでは、ムービーはデスクトップ上に保存されますが、「QuickTime Player」の環境設定の「記録」パネルで別のデフォルトの場所を選択できます。ムービーが保存されている場所を確認するには、コマンドキーを押しながら、ウィンドウの上部にあるアイコンをクリックします。

記録オプションを設定する

QuickTime Pro を使用してビデオまたはオーディオをはじめて記録する場合は、設定は自動的に選択されます。必要に応じて、使用する記録装置やフォーマット、記録したムービーの保存場所などの設定を変更できます。

記録オプションを変更するには：

- 1 「QuickTime Player」>「環境設定」（Windows では「編集」>「設定」>「Player 設定」）と選択します。
- 2 「録画／録音」（Windows コンピュータの場合は「オーディオ録音」）をクリックします。
- 3 ビデオソース、マイク、および品質に関して目的のオプションを選択し、記録したファイルを保存するデフォルトの場所を選択します。

ムービーの保存について

QuickTime Pro では、ムービーを作成および編集し、保存できます。「ファイル」>「別名で保存」(Mac OS X の場合)または「名前を付けて保存」(Windows の場合)と選択すると、以下のいずれかでムービーを保存できます：

- 独立再生形式のムービーでは、ムービーの作成に使用したすべてのデータ（ビデオ、オーディオなど）が単一のファイルに含まれます。
- リファレンスマービーには、ハードディスク上の別のフォルダや Web サーバなど、別の場所に保存されているほかのムービー（またはムービーの一部）へのポインタが含まれます。ほかのムービーへのポインタは、ムービーの一部をコピーして別のムービーにペーストした場合などに作成されます。

ハードディスクの空き容量が十分でなく、ソースムービーの場所が変わらないことが確かな場合は、ムービーをリファレンスマービーとして保存できます。コピーしてペーストするメディアは、全体が新しいムービーファイル内に保存されるのではなく、容量を節約するメディアへのポインタとして保存されます。

リファレンスマービーを再生すると、QuickTime はポインタに従ってほかのムービー（またはムービーの一部）にアクセスして再生します。ムービーにほかのデータへのポインタが含まれているかどうかを調べるには、「ウインドウ」>「ムービーのプロパティを表示」と選択し、ウインドウの上部にあるムービーを選択して、「リソース」をクリックします。ムービーを含むファイルがリストに表示されない場合は、ムービーにポインタが含まれており、独立再生形式ではありません。Macintosh では、コマンドキーを押しながらアイコンをクリックして、ムービーを含むファイルの名前と場所を確認できます。

「リファレンスマービー」という用語は、接続速度に応じて異なるユーザに異なるサイズのストリームをインテリジェントに配信するために作成できるファイルにも使用されます。詳しくは、48 ページの「リファレンスマービーを作成して Web 再生を最適化する」を参照してください。

インターネットからムービーを保存する

QuickTime Pro を使用して、Web ブラウザに表示されているムービーをハードディスクに保存（ダウンロード）できます。（ムービーが保存を許可するように作成されている必要があります。）ストリーミングムービーの場合は、QuickTime Pro にストリームを示す小さな「リファレンスマービー」が保存されます。

インターネットムービーをハードディスクに保存するには：

- 1 ムービーの読み込みが終わったら（進行状況バー全体がグレイになったら）、再生コントロールの下矢印をクリックします。
- 2 「QuickTime ムービーとして保存」を選択します。

このコマンドが使用不可になっている場合、ムービーは保存できないように作成されています。

静止イメージからスライドショーまたはアニメーションを作成する

QuickTime Pro では、一連の静止イメージを組み合わせて、スライドショーのように再生されるムービーを作成できます。このプロセスは、デジタルカメラまたは携帯電話で撮影したピクチャを共有するための最も簡単な方法です。

参考：スライドショーは、すべてのイメージが同じサイズの場合に最も効果的なものを作成できます。

静止イメージからスライドショーを作成するには：

- 1 含めたいすべてのグラフィックファイルを 1 つのフォルダに入れます。
- 2 各ファイルに同じ名前を付けて、末尾に「picture1」、「picture2」のように増分する番号を付けます。

なお、大部分のデジタルカメラでは、自動的にファイルに番号が付けられます。番号は増分値である必要がありますが、正確に連番でなくてもかまいません（たとえば、各ファイルに「picture1」、「picture5」、「picture10」のように名前を付けることもできます）。

- 3 「QuickTime Player」で、「ファイル」>「イメージシーケンスを開く」と選択し、先頭のファイルを選択します。
- 4 「フレームレート」ポップアップメニューからフレームレート（1 秒当たりに表示されるフレーム数）を選択します。

スライドショーは通常、1 フレームあたり 2 ～ 3 秒でスライドが表示されると最も効果的に動作します。

QuickTime Pro で、各ピクチャが順に表示されるムービーが作成されます。

- 5 「ファイル」>「保存」と選択し、ムービーに名前を付けて保存します。

ムービーを保存する前にオーディオトラックを追加すれば、スライドショーにミュージックを追加することもできます。オーディオファイルを開き、スライドショーに追加する部分を選択し、「編集」>「コピー」と選択します。スライドショー（またはその一部）を選択して「編集」>「すべてを選択」（Mac OS X の場合）または「すべて選択」（Windows の場合）と選択し、「編集」>「選択範囲に調整して追加」と選択します。オーディオの速度はペースト先の長さに収まるように増減します（ピッチは同じままです）。最良の結果を得るためには、スライドショーの長さをできるだけオーディオの長さに合わせます。異なる位置から始まる複数のオーディオファイルをムービーに追加することで、サウンドトラックを長くすることもできます。

また、新しいプレーヤーウィンドウを開き、オーディオをコピーして新しいウィンドウにペーストしてから、「編集」>「選択範囲に調整して追加」と選択してスライドショーをコピーして新しいウィンドウにペーストすることで、元のオーディオの速度を維持し、イメージの速度を変更できます。

Mac OS X を使用している場合：QuickTime Pro の録音機能を使用してスライドショーにナレーションを付けることもできます。25 ページの「ビデオとオーディオを記録する」を参照してください。

ムービーから静止イメージを作成する

QuickTime Pro を使用して、ムービーから単一のフレームをイメージファイルとして書き出すことができます。

ムービーから静止イメージを保存するには：

- 1 書き出したいフレームに再生ヘッドを移動します。
- 2 「ファイル」 > 「書き出し」（Mac OS X の場合）または 「エクスポート」（Windows の場合）と選択します。
- 3 「書き出し」ポップアップメニュー（Mac OS X の場合）または 「エクスポート」ポップアップメニュー（Windows の場合）から、「ムービーからピクチャ」を選択します。
- 4 「オプション」をクリックし、「圧縮の種類」ポップアップメニューからフォーマットを選択します。

ムービーからすべてのフレームを一連のイメージとして書き出すには、「ムービーからイメージシーケンス」を選びます。すべてのフレームを書き出すと多数のファイルが生成されることがあるので、デスクトップではなくフォルダに書き出すことをお勧めします。

ファイルを QuickTime ムービーに変換する

QuickTime Pro をお持ちの場合は、「QuickTime Player」を使ってさまざまな種類のビデオ、オーディオ、グラフィックス、およびアニメーションファイル（FLASH ファイルを含む）を QuickTime ムービーに変換できます。ファイルを QuickTime ムービーに変換するときは、そのファイルを「QuickTime Player」で開いてから、「ファイル」 > 「保存」と選択します。

メールまたは Web でムービーを共有する

QuickTime Pro と Mac OS X を使用すれば、メールや .Mac HomePage でほかのユーザと共有するのに適したムービーを簡単に作成できます。ムービーの共有方法を選択するだけで、QuickTime Pro ではその配信方法に合ったファイルを自動的に作成します。（「共有」機能を使用してムービーを Web 上で公開するには、.Mac アカウントが必要です。）

ムービーを共有するには：

- 1 「ファイル」 > 「共有」と選択します。
- 2 「メール」または「HomePage」をクリックします。
- 3 ムービーの名前とサイズを選択します。
- 4 ムービーを Web 上で公開する場合は、ムービーの名前を入力できます（入力する名前は Web ページに表示されます）。
- 5 「共有」をクリックします。

ムービーが書き出されている間、必要に応じて、「x」をクリックして書き出しをキャンセルすることができます。

「メール」をクリックすると、「Mail」で新しいメッセージウィンドウが開き、ムービーが添付されます。「HomePage」をクリックすると、ブラウザが開き、指定した Web ページが表示されて、ムービーが埋め込まれます。友人がムービーを見ることができるよう URL を送信します。

QuickTime Pro を使って編集する／作成する

3

QuickTime Pro を使ってムービーを編集したり、ムービートラックを操作したりする方法を説明します。

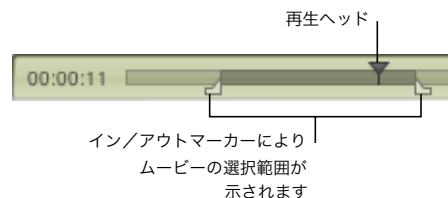
簡単な編集

QuickTime Pro を使用すると、ムービーの編集作業を行えます。

ムービーの一部を選択する／再生する

「コピー」や「削除」などの編集機能を実行するには、ほとんどの場合、まずムービーの目的の部分を選択する必要があります。（何も選択しないと、編集コマンドは現在のフレーム上で実行されます。）

ムービーの一部を選択するときは、イン／アウト選択マーカを移動します。2つのマーカの間領域のグレイの領域が選択部分を示しています。選択部分を微調整するときは、マーカを選択し、矢印キーを使って移動させます。ムービーが再生中のときも、再生ヘッドを移動して、Iキー（イン）またはOキー（アウト）を押し、選択部分の開始位置または終了位置を設定することができます。



ヒント： イン／アウトマーカを別の位置に移動するには、再生ヘッドを目的の位置にドラッグ（または矢印キーを使用して移動）して、IキーまたはOキーを押します。

選択部分を再生するには、「表示」 > 「選択範囲のみ再生」（チェックマークが表示されます）と選択し、「再生」をクリックします。ムービー全体を再生するには、再度「表示」 > 「選択範囲のみ再生」と選択します（チェックマークが解除されます）。

QuickTime Pro では、次回開いたときに選択した部分だけが再生されるようにムービーを保存できます（「ファイル」 > 「保存」と選択します）。

参考：デフォルトでは、何も選択していないと選択マーカが表示されないの、フレームが選択されているかどうか簡単に判断できます。何も選択していない場合でも選択マーカが表示されるようにこのオプションを切にするには、「QuickTime Player」の環境設定 (Mac OS X の場合) または Player 設定 (Windows の場合) で「何も選択していないときに選択範囲表示を隠す」オプションを変更します。

ムービーの一部をカットする／コピーする／削除する

QuickTime Pro でムービーの一部を選択し、移動、コピー、または削除 (トリミング) するのは簡単です。

ムービーの一部をカット、コピー、または削除するには：

- 1 目的のフレームが表示されるまで再生ヘッドを移動するか、変更するムービーの一部を選択します (イン/アウト選択マーカと矢印キーを使用します)。
- 2 「編集」 > 「コピー」、「カット」 (Mac OS X の場合) または 「切り取り」 (Windows の場合)、または 「削除」と選択します。
「コピー」、または 「カット」 (Mac OS X の場合) または 「切り取り」 (Windows の場合) を選ぶと、選択部分を別の場所にペーストできます。
- 3 選択部分をペーストしたい場所に再生ヘッドを置き、「編集」 > 「ペースト」 (Mac OS X の場合) または 「貼り付け」 (Windows の場合) と選択します。

QuickTime Pro では、ペーストした選択部分は再生ヘッドの位置に挿入されます。

「編集」 > 「選択範囲にトリム」と選択することにより、選択されていないムービーのすべての部分を削除することもできます。

参考：ムービーの一部を削除した後、「ファイル」 > 「別名で保存」 (Mac OS X の場合) または 「名前を付けて保存」 (Windows の場合) と選択し、「独立再生形式のムービーとして保存」を選択するまで、ファイルサイズは同じままです。

2つのQuickTimeムービーを1つにする

QuickTime Pro を使うと、複数のムービーを簡単に組み合わせて、1つの長いムービーを作成できます。

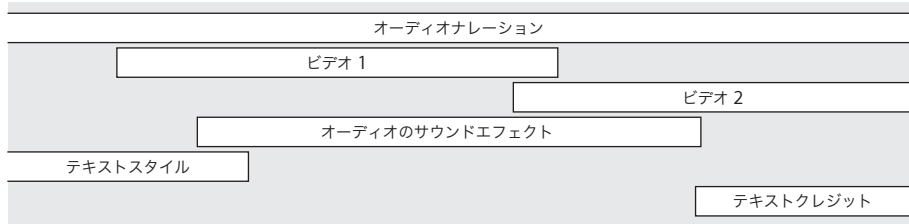
2つのムービーを組み合わせるには：

- 1 「QuickTime Player」で、「編集」 > 「すべてを選択」 (Mac OS X の場合) または 「すべてを選択」 (Windows の場合) と選択して、最初のムービーの内容全体を選択します。
- 2 「編集」 > 「コピー」と選択してから、もう一方のムービーを開きます。
- 3 コピーしたムービーを挿入するポイント (通常はオリジナルのムービーの開始位置または終了位置) に再生ヘッドを移動して、「編集」 > 「ペースト」 (Mac OS X の場合) または 「貼り付け」 (Windows の場合) と選択します。
- 4 「ファイル」 > 「別名で保存」 (Mac OS X の場合) または 「名前を付けて保存」 (Windows の場合) と選択し、新しいムービーに名前を付けて保存します。

トラックを操作する

QuickTime ムービーは 1 つまたは複数の「トラック」で構成されています。各トラックには特定の種類のデータが保存されます。たとえば、QuickTime ムービーには、ビデオトラック、ミュージックトラック、およびサウンド・エフェクト・トラックが入っていることがあります。

QuickTime Pro では、トラックを個別に編集できます。ムービー間でトラックを移動したり、使用するトラックを切り替えたり、トラックを削除したり、トラックに含まれる情報を変更したりできます。



使用するトラックを切り替える

QuickTime Pro を使用して、1 つまたは複数のトラックを選んで有効または無効にすることができます。たとえば、トラックを切にして編集を簡単にしたり、最終的なムービーでトラックを隠したりできます。ムービーを書き出すときは、有効になっているトラックだけが書き出されます。

ムービーで使用するトラックを切り替えるには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ウインドウ」>「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
ムービーのトラックは、情報ウインドウの上部にあるリストに表示されます。
- 2 「有効」チェックボックスを使用して、トラックの入（選択）または切（選択解除）を切り替えます。

トラックを削除するには、そのトラックを「ゴミ箱」（Mac OS X の場合）または「ごみ箱」（Windows の場合）にドラッグするか、選択してから「削除」をクリックします。「編集」>「カット」（Mac OS X の場合）または「切り取り」（Windows の場合）と選択するか、Delete キーを押すこともできます。

参考：オーディオトラックの場合、「オーディオ設定」をクリックすることにより、ほかのオプションを使用できます。選択したトラック内のオーディオだけを再生するには、「ソロ」を選択します。ムービーをオーディオなしで再生するには、「消音」をクリックします。

トラックを取り出す／追加する／移動する

QuickTime Pro を使用して、オリジナルのムービーファイルには手をつけずに、既存のムービーの 1 つまたは複数のトラックから新しいムービーを作成することができます。たとえば、既存のムービーのオーディオだけを使用するムービーを作成することができます。そのためには、目的のトラックを取り出します。

取り出したトラックを既存のムービーに追加することもできます。

トラックを取り出す（そして、それを別のムービーに追加する）には：

- 1 「ウインドウ」 > 「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 2 目的の1つまたは複数のトラックを選択し、「取り出す」をクリックします。
Shift キーを押しながらクリックすると、複数のトラックを選択できます。
QuickTime で、取り出したトラックを含む新しいムービーが作成されます。
- 3 取り出したトラックを別のムービーに追加するには、ムービー（または、ペーストしたメディアを収めるムービーの一部）を選択し、「編集」 > 「ムービーに追加」と選択します。

トラックをムービーに追加する際、トラックの再生時間は変わりません。たとえば、1 分のムービーに 10 秒のサウンドトラックを追加すると、そのサウンドトラックは追加した位置から 10 秒間再生されます。

特定の長さには拡張または圧縮されるようにトラックを「調整」するには、手順 3 で、対象となるムービーのイン/アウトのマーカをドラッグして新しいトラックの再生時間を選択し、「編集」 > 「選択範囲に調整して追加」と選択します。オーディオを調整するとオーディオの速度が変わることがあります（ただし、「QuickTime Player」でムービーを再生するときのピッチは同じままです）。代わりにビデオをサウンドに追加し、ビデオの速度を上下してオーディオにあわせることができます。2 つのトラックのタイムラインを比較し、同じ再生時間になるまでいずれかをカットすると、より適切な結果を得られる場合があります。

オーディオトラックを操作する

QuickTime オーディオには、MIDI やその他のデータを含むミュージックトラックと、デジタルオーディオを含むサウンドトラックがあります。

QuickTime ムービーにオーディオトラックを追加する

QuickTime ムービーにはオーディオトラックやそのほかのトラックを簡単に追加できます。

オーディオトラックをムービーに追加するには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ファイル」 > 「ファイルを開く」と選択し、読み込みたいオーディオファイルを選択します。
- 2 QuickTime Player ウィンドウで、「編集」 > 「すべてを選択」（Mac OS X の場合）または「すべて選択」（Windows の場合）と選択してオーディオファイル全体を選択し、「編集」 > 「コピー」と選択します。
- 3 オーディオを追加するムービーを開きます。
- 4 ムービー全体にオーディオを追加するには、「編集」 > 「追加」と選択します。ムービーの一部にオーディオを追加するには、ムービーの一部を選択し、「編集」 > 「選択範囲に調整して追加」と選択します。

「選択範囲に調整して追加」では、オーディオトラックの速度を増減してムービーの選択部分の長さには収めます。ピッチは同じままです（「QuickTime Player」でムービーを再生する場合）。代わりにビデオをサウンドに追加し、ビデオの速度を上下してオーディオにあわせることができます。2 つのトラックのタイムラインを比較し、同じ再生時間になるまでいずれかをカットすると、より適切な結果を得られる場合があります。

参考：オーディオとビデオがデジタル・ビデオ・カメラなどの同じ装置で同時に作成されている場合は、オーディオとビデオが同期します。

サウンドトラックの音量レベルとその他のオーディオ設定を変更する

QuickTime Pro を使用して、オーディオトラックとミュージックトラックの音量とバランスを変更できます。たとえば、ムービーに複数のオーディオトラックがある場合、トラックの音量を互いに比例するように調整することができます。低音レベルと高音レベルを変更することもできます。

オーディオトラックの設定を変更するには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ウインドウ」>「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 2 情報ウインドウで、オーディオトラックを選択し、「オーディオ設定」をクリックします。
- 3 スライダをドラッグして設定を調整します。
- 4 各オーディオチャンネルの右側のポップアップメニューを使用して、チャンネルのサウンドの向きを指定します。

チャンネルのサウンドをサブウーファーに向けるには、「LFE スクリーン」を選択します。オーディオ装置の特定の出力を指定するには、「ディスクリート」オプションのいずれかを選択します。特定のチャンネルを無音にするには、「未使用」を選択します。

- 5 オーディオを切にするには（トラックを削除せずに）、「消音」を選択します。選択したオーディオトラックだけを再生するには、「ソロ」を選択します。
- 6 ムービーと一緒にバランスとチャンネルの設定を保存するには、「ファイル」>「保存」、または「別名で保存」（Mac OS X の場合）または「名前を付けて保存」（Windows の場合）と選択します。

複数のムービーを同じフレームに表示する

QuickTime Pro を使用して、複数のビデオトラックを同じウインドウに配置してムービーを並べて再生したり、ピクチャ内ピクチャ効果を作成したりすることができます。

複数のムービーを同じフレームに表示するには：

- 1 「QuickTime Player」で、「編集」>「すべてを選択」（Mac OS X の場合）または「すべて選択」（Windows の場合）と選択して、最初のムービーの内容全体を選択します。
- 2 「編集」>「コピー」と選択してから、もう一方のムービーを開きます。
- 3 最初のムービーの再生を開始するポイント（通常はオリジナルのムービーの開始位置または終了位置）に再生ヘッドを移動して、「編集」>「ムービーに追加」と選択します。
- 4 「ウインドウ」>「ムービーのプロパティを表示」と選択し、新しいビデオトラックを選択して、「ビジュアル設定」をクリックします。
- 5 「現在のサイズ」コントロールと「レイヤー」コントロールを使用して、新しいビデオを目的のサイズとレイヤーに設定します（レイヤーに設定する数値が小さいほど、前面つまり「上」に表示されます）。

たとえば、ピクチャ内ピクチャ効果の場合、オリジナルのムービーの内部にムービーを追加するときは、新しいムービーを小さくし、若いレイヤー番号を割り当てます。

グラフィックスとテキストをムービーにペーストする

QuickTime Pro を使用して、グラフィックスやテキストを QuickTime ムービーにペーストすることができます。

ペーストしたグラフィックスがムービーのサイズよりも大きい場合は、QuickTime Pro により、ムービーのサイズがグラフィックスのサイズに収まるように変更されます。ただし、最良の結果を得るためには、グラフィックスのサイズを調整し（グラフィックスプログラムを使用して）、ムービーに挿入する前にグラフィックスとムービーのサイズを一致させてください。ムービーから単一のフレームを書き出して、テキストを配置する際のガイドとして使うことができます。（28 ページの「ムービーから静止イメージを作成する」を参照。）

ムービーのサイズを確認するには、「ウインドウ」>「ムービーのプロパティを表示」と選択し、ビデオトラックを選択して、「ビジュアル設定」をクリックします。

グラフィックスやテキストを追加するには：

- 1 テキストまたはグラフィックスをクリップボードにコピーします。
- 2 「QuickTime Player」で、コピーした項目を表示するポイントに再生ヘッドを移動します。
- 3 「編集」>「ペースト」（Mac OS X の場合）または「貼り付け」（Windows の場合）と選択します。

この手順により、グラフィックスはムービーのフレーム内の「ペースト」位置に挿入されます。グラフィックスをフレーム上の「ペースト」位置にペーストするには、「編集」>「ムービーに追加」と選択します。

グラフィックスを複数のフレームに表示するには、ムービーの、グラフィックスを追加したい部分を選択し、「編集」>「選択範囲に調整して追加」と選択します。この方法を使って、会社のロゴをムービー全体に追加できます。（38 ページの「トラックの透明度を変更する」も参照してください。）

テキスト・トラックを操作する

QuickTime ムービーにテキストを追加して、タイトル、クレジット、字幕を作成することができます。QuickTime Pro を使うと、テキスト・トラックの検索が可能です。このため、キーワードを使ってムービー内のフレームを正確に検索できます。テキスト・トラックの追加について詳しくは、以降のトピックを参照してください。

QuickTime ムービーにテキスト・トラックを追加する

QuickTime Pro を使用して、テキストファイル QuickTime ムービーに読み込むことができます。

テキスト・トラックを追加するには：

- 1 ムービーに入れるテキストを含むテキストファイルを作成し、ファイルをテキストのみ（.txt）として保存します。

各パラグラフを改行文字で区切ります。各パラグラフはムービーの別々のフレームに表示されます。デフォルトでは、各テキストフレームは 2 秒間表示されます。

- 2 「QuickTime Player」で、「ファイル」>「ファイルを開く」と選択し、テキストファイルを選択します。
- 3 「開く」をクリックします。

ムービーにテキストを重ねる

QuickTime Pro では、「QuickTime Player」を使って、既存のムービーの特定の部分にテキストを重ね合わせる（スーパーインポーズ）ことができます。

テキストを重ねるには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ファイル」>「ファイルを開く」と選択し、テキストファイルを選択します。
- 2 「編集」>「すべてを選択」（Mac OS X の場合）または「すべて選択」（Windows の場合）と選択し、次に「編集」>「コピー」と選択します。（Windows の場合は、「オプション」をクリックし、「キーテキスト」チェックボックスにチェックマークを付けて、トラックをコピーします）。
- 3 ムービーの、テキストを重ねる部分を選択します。
- 4 「編集」>「選択範囲に調整して追加」と選択します。
- 5 独立再生形式のムービーとして保存します。

ムービーの、選択した部分全体にテキストが表示されます。テキストの各行を表示する長さの調整については、36 ページの「テキスト・トラックのフレーム再生時間を設定する」を参照してください。

テキスト・トラックのフォントスタイルを指定する

QuickTime Pro では、ムービー内の既存のテキスト・トラックのフォント属性を変更できます。これを行うには、トラックを書き出し、変更を実行してから、トラックを再度読み込みます。

テキスト・トラックのフォントスタイルを変更するには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ファイル」>「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択します。
- 2 「書き出し」ポップアップメニュー（Mac OS X の場合）または「エクスポート」ポップアップメニュー（Windows の場合）から「テキストからテキスト」を選択します。
- 3 「オプション」をクリックし、「テキスト、ディスクリプタ、時刻の表示」を選択します。
- 4 テキストエディタを使って、{QTtext} タグの後の値を変更します。
- 5 テキスト・トラックをムービーに読み込んで戻します。

Windows の場合は、「変換」をクリックします。デフォルトの設定でテキストを読み込むには、「保存」をクリックします。別の設定（フォント属性など）を選択するには、「オプション」をクリックします。

テキストにタグを挿入して、ムービーの再生中に値を変更することもできます。

テキスト・トラックのフレーム再生時間を設定する

QuickTime Pro を使用して、既存のテキスト・トラックの各フレームの再生時間を 2 秒以外の値に設定できます。これを行うには、トラックを書き出し、変更を実行してから、トラックを再度読み込みます。

現在のテキストフレーム情報を変更するには：

- 1 「QuickTime Player」で、Mac OS X では「ファイル」>「書き出し」と選択し、「書き出し」ポップアップメニューから「テキストからテキスト」を選びます。Windows の場合は、「ファイル」>「エクスポート」と選択し、「エクスポート」ポップアップメニューから「テキストからテキスト」を選びます。
- 2 「オプション」をクリックし、「テキスト、ディスクリプタ、時刻の表示」を選択します。
- 3 テキストファイルの情報を編集してから、トラックをムービーに読み込んで戻します。

テキストファイル内の各テキスト行の再生時間は、テキスト行の前の行に個別に表示されます。入力する時間は、ムービーの再生を開始してからこのテキスト行が表示されるまでの時間です。

タイムスタンプは、時：分：秒：秒の分数（デフォルトの「テキストからテキスト」の書き出し設定では 1/600 秒）として指定されます。たとえば、「00:02:11:00」という時刻を入力すると、その次の行にあるテキストはムービーの中で 2 分 11 秒後に表示されます。

テキスト・トラックのその他のディスクリプタについて詳しくは、QuickTime の Web サイト (www.apple.com/jp/quicktime/) の「デベロッパ」のセクションを参照してください。

個別のトラックの言語を指定する

QuickTime Pro では、個別のトラックの言語を指定することにより、複数の言語をサポートするムービーを作成できます。たとえば、言語ごとに異なるオーディオトラックが含まれているムービーを作成できます。QuickTime は、ユーザのコンピュータの言語設定に基づいて、自動的に正しいトラックを再生します。

言語を指定するには：

- 1 代替トラックを作成またはアセンブルします。

使用する言語ごとにボイスオーバーを録音するか、字幕として使用するテキスト・トラックを作成します。各代替トラックを独立再生形式のムービーとして保存してから、代替トラックすべてをまとめて 1 つのフォルダに入れます。
- 2 代替トラックが入っているフォルダに、オリジナルのムービー、独立再生形式のムービー、および代替として保管したトラックを差し引いたトラックのコピーを入れます。
- 3 ムービーを開き、「ウインドウ」>「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 4 情報ウインドウで、サウンドトラックまたはテキスト・トラックを選択し、「その他の設定」をクリックします。
- 5 「言語」ポップアップメニューからこのトラックの言語を選択します。
- 6 「代替」ポップアップメニューから、別の言語が選択されるときに使用するトラックを選択します。

- 7 独立再生形式のムービーとして保存します（「編集」 > 「別名で保存」（Mac OS X の場合）または「名前を付けて保存」（Windows の場合）と選択し、「独立再生形式で保存」が選択されていることを確認します）。
- 8 追加の言語トラックに対してこの手順を繰り返します。そのたびに、「代替」ポップアップメニューから以前に選択した言語を選びます。

ムービーのプロパティを変更する

以降のセクションでは、ムービーをサイズ変更または回転する方法、ムービーのポスターフレームを設定する方法などを説明します。

ムービーに注釈を追加する

QuickTime Pro を使用して、注釈を追加し、ムービーの原作者、ディレクター、著作権情報などの、ムービーに関する情報を記録できます。ムービー全体および個々のトラックに注釈をつけることができます。

ムービーに注釈をつけるには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ウインドウ」 > 「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 2 リストから項目を選択し、「注釈」をクリックします。
- 3 「注釈の追加」ポップアップメニューから、追加する注釈を選択します。
- 4 リストの「値」列に注釈を入力します。

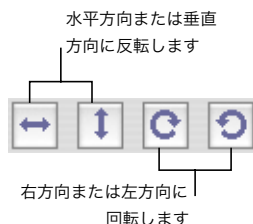
QuickTime Pro を持っていないユーザには、ムービーに含まれる注釈のうち 3 つだけが表示されます。（表示される 3 つの注釈は、ムービーに含まれる注釈に依存します。）

ムービーのサイズを変更する／ムービーを反転させる／ムービーを回転させる

QuickTime Pro を使用して、ムービーに含まれるビデオトラックのサイズや方向を変更できます。

QuickTime ムービーをサイズ変更する、または回転させるには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ウインドウ」 > 「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 2 情報ウインドウで、ビデオトラックを選択し、「ビジュアル設定」をクリックします。
- 3 ムービーのサイズを変更するには、「現在のサイズ」フィールドに新しい数値を入力します。同じ高さや幅の比率を維持するには、「アスペクト比を保持」を選択します。
- 4 ムービーを回転させるには、いずれかの回転ボタンをクリックします。



ムービーを元の外観に戻すには、「リセット」をクリックします。

ビデオマスクを使ってムービーの形状を変更する

QuickTime Pro では、ビデオマスクを使って、ムービーの形状を長方形からほかの形状に変更することができます。メディアスキンと組み合わせると、ムービーの「皮をはいで」長方形でない領域で再生できるようにしてから（たとえば、ムービーを船の舷窓の中から再生できます）、マスクを使ってムービーの形状を目的の再生領域に制限することができます。

グラフィックスプログラムを使ってマスクを作成し、QuickTime と互換性のあるファイル（たとえば、BMP、GIF、JPEG、または PICT）として保存します。マスクは、白色の背景上にある黒色の形状でなければなりません。ムービーは黒色の形状を通して表示されます。

ビデオマスクを追加するには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ウインドウ」>「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 2 マスクを割り当てるビデオ・トラックを選択し、「ビジュアル設定」をクリックします。
- 3 マスクファイルを情報ウインドウの「マスク」ボックスにドラッグするか、「選択」をクリックしてファイルを選択します。

トラックの透明度を変更する

QuickTime Pro では、一部が透明なトラックを作成できます。この方法は、ムービーにロゴを重ね合わせる場合などに便利です。

トラックの透明度を変更するには：

- 1 ムービーにトラックを追加します。（31 ページの「トラックを取り出す／追加する／移動する」を参照。）
- 2 「ウインドウ」>「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 3 トラックを選択し、「ビジュアル設定」をクリックします。
- 4 「透明度」ポップアップメニューから「ブレンド」を選択し、「透明度レベル」のスライダをドラッグします。

ムービーのチャプタリストを作成する

QuickTime Pro では、ポップアップ・チャプタ・リストを作成してムービー内の特定のポイントに移動できます。最初にトピック（またはエントリーポイント）のリストを作成し、そのリストをテキスト・トラックとしてムービーに読み込みます。そのムービーを「QuickTime Player」で再生すると、現在のチャプタがムービーコントローラに表示されます。（11 ページの「QuickTime Player でムービーを開く／再生する」を参照。）

チャプタリストを作成するには：

- 1 テキストエディタまたはワードプロセッサでチャプタのリストを入力し、その書類をプレーンテキストとして保存します。
項目はできるだけ短くし（できれば複数の語を使うのは避けて、1語だけ）、その末尾を改行してください。
- 2 「QuickTime Player」で、「ファイル」>「ファイルを開く」と選択してテキストファイルを選び、「開く」をクリックします。
- 3 「ファイル」>「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択します。「書き出し」ポップアップメニュー（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）で「テキストからテキスト」を選びます。「出力」ポップアップメニューで「テキスト、ディスクリプタ」を選びます。
- 4 「オプション」をクリックします。「テキスト書き出し設定」ダイアログ（Mac OS X の場合）または「テキストエクスポート設定」ダイアログ（Windows の場合）で、「テキスト、ディスクリプタ、時刻の表示」を選択し、「次の開始位置からの相対時間を表示」から「ムービー」を選択して、1秒の分割を1/30（デフォルトは1/1000）に設定します。
- 5 「OK」をクリックしてから「保存」をクリックし、ディスクリプタ付きのテキストファイルを作成します。
- 6 テキストエディタまたはワードプロセッサで書き出したファイルを開いて、「QuickTime Player」で対象となるムービーを開きます。
- 7 「ウインドウ」>「ムービーの情報を表示」と選択します。
- 8 「QuickTime Player」で、タイムライン上の再生ヘッドをドラッグして、新しいチャプタを開始するムービーの最初のポイントを探します。
右矢印と左矢印を使用して必要に応じてフレームを前後に移動します。情報ウインドウの「現在の時間」をメモしておいてください。
- 9 テキストファイルで最初のチャプタ・タイトルを検索し、チャプタ・タイトルの直前のタイムスタンプを情報ウインドウでメモした時間に変更します。
タイムスタンプは、たとえば、[00:01:30.15] のようになります。この場合、最初のチャプタ・タイトルを選択すると、ビューアはムービーの1分30秒15フレームにジャンプします。
- 10 ムービーのチャプタの区切りに該当する場所をすべて識別して、テキストファイルに適切なタイムスタンプを入力するまで、手順9～11を繰り返します。
- 11 最後のタイムスタンプ（テキストファイルで最後のチャプタ・タイトルの後に表示されます）を変更してムービーの継続時間に合わせます。
- 12 テキストファイルを保存して、そのファイルを「QuickTime Player」に読み込みます。
QuickTimeにより、テキスト・トラック付きの新しいムービーが作成されます。
- 13 「編集」>「すべてを選択」（Mac OS X の場合）または「すべてを選択」（Windows の場合）と選択して、「編集」>「コピー」と選択し、ムービーを閉じます。
- 14 メインムービーをクリックし、「編集」>「すべてを選択」（Mac OS X の場合）または「すべてを選択」（Windows の場合）と選択して、「編集」>「選択範囲に調整して追加」と選択します。

QuickTime により、ムービーにテキスト・トラックが追加されます。

- 15 「ウインドウ」 > 「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 16 情報ウインドウで、チャプタトラックに関連付けるビデオトラックまたはオーディオトラックを選択し、「その他の設定」をクリックします。
- 17 「チャプタ」ポップアップメニューからメインのビデオトラックまたはオーディオトラックを選択します。

ムービーに複数の字幕やサウンドトラックがある場合、異なる言語で複数のチャプタリストを作成して、適切な字幕またはサウンドトラックを各チャプタリストのオーナーとして設定することができます。選択した言語のチャプタリストは変更されます。

- 18 テキスト・トラックを選択し、「このトラックをあらかじめ読み込む」を選択します（最初にチャプタトラックの読み込みを行います）。
- 19 新しいテキスト・トラックを選択解除し、ビデオの先頭に表示されないようにします。
新しいトラックは、依然チャプタトラックとして機能します。
- 20 ムービーを独立再生形式で保存します。

これで、タイムラインの右側のポップアップメニューからチャプタ・タイトルを選択できます。

ムービーのポスターフレームを設定する

「ポスターフレーム」はムービーの静止イメージで、「QuickTime Player」の「よく使う項目」ウインドウ（Mac OS X の場合）または「お気に入り」ウインドウ（Windows の場合）、「Finder」などでムービーを表します。デフォルトのポスターフレームは、ムービーの最初のフレームです。QuickTime Pro では、ポスターフレームを変更できます。

ムービーのポスターフレームを変更するには：

- 1 「QuickTime Player」で、目的のフレームに再生ヘッドをドラッグ（または、矢印キーを使用して再生ヘッドを移動）します。
- 2 「表示」 > 「ポスターフレームを設定」と選択します。

ムービーのポスターフレームを表示するには、「表示」 > 「ポスターフレームへ移動」と選択します。

ムービーを特定の再生設定で保存する

QuickTime Pro を使用して、ムービーを開いて再生するときの方法や、ムービーの終了時の動作、QuickTime でビデオのサイズ変更を使用する方法を指定できます。

再生オプションを指定するには：

- 1 「ウインドウ」 > 「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 2 ムービー名を選択し、「プレゼンテーション」をクリックします。
- 3 目的のオプションを選択します。

「一般設定」のオプションでは、ムービーの再生を自動的に開始するかどうかや、フルスクリーン再生にするかどうか、ムービーの再生が終了したときにムービーを開いたままにするか「QuickTime Player」を終了するかを指定できます。ムービーのこれらのオプションを選択するには、チェックボックスを使用します。

「アパーチュアを適合」の設定では、再生中のビデオの外側のエッジを処理する方法を指定できます。ムービーの作成方法やムービーのアスペクト比および解像度によって、品質が最も良く、表示に向いているイメージ領域の部分は異なります。再生中、QuickTime では、視覚的な明瞭度が最も高くなるように選択したアパーチュア設定を使用してイメージを調整します。

- 「クラシック」アパーチュアでは、トラックで指定されているサイズを使用します。
- 「クリーン」アパーチュアでは、クリーンアパーチュア領域を切り取り、トラックのピクセルアスペクト比に従ってイメージをサイズ調整します。クリーンアパーチュア領域では、エンコーディング処理がある可能性のあるビデオのエッジは除外されます。
- 「プロダクション」アパーチュアでは、ピクセルアスペクト比に従ってサイズ調整されますが、ビデオの切り取りは行われません。
- 「エンコードピクセル」では、ムービーの切り取りもサイズ調整も行われません。

4 ムービーを保存します。

ムービーコントローラの種類を変更する

QuickTime Pro では、QuickTime Player ウィンドウで使用可能な再生コントロールの種類を指定できます。たとえば、QTVR ムービーの場合、QTVR ムービーのいずれかのコントローラと一緒にムービーを保存できます。

ムービーコントローラの種類を指定するには：

- 1 「ウインドウ」 > 「ムービーのプロパティを表示」と選択します。
- 2 「ムービー」を選択し、「プレゼンテーション」をクリックします。
- 3 「ムービーコントローラの種類」ポップアップメニューからオプションを選択します。
- 4 ムービーを保存します。

QuickTime Pro を使ってファイルを書き出す

4

QuickTime によるファイルの作成方法をさらに細かく制御する場合は、QuickTime Pro の書き出し機能を使用します。

QuickTime Pro を使用すると、ムービーを QuickTime ムービー (MOV)、MPEG-4、3GPP、3GPP2、AVI、DV などのさまざまなファイルフォーマットに書き出すことができます。また、オーディオトラックをいくつかのオーディオフォーマットに書き出したり、ムービーの個別のフレームを別々のイメージファイルとして書き出したり、テキスト・トラックをテキストファイルに書き出したりすることができます。

ムービーで使用可能なファイルフォーマットのリストを表示するには、「QuickTime Player」でムービーを開き、Mac OS X では「ファイル」>「書き出し」と選択して、「書き出し」ポップアップメニューでファイルフォーマットの選択肢のリストをブラウズします。Windows の場合は、「ファイル」>「エクスポート」と選択して、「エクスポート」ポップアップメニューでファイルフォーマットの選択肢のリストをブラウズします。



ビデオとオーディオの圧縮について

圧縮されていないビデオおよびオーディオの場合、保存には多くのディスク容量が、配信には多くの帯域幅（データを転送できる速度）が必要なため、ムービーは圧縮（エンコード）してから別のコンピュータまたは Web 上に送信することをお勧めします。通常、ムービーは、書き出しプロセスの一部として圧縮（エンコード）されます。

プリセットを使用してファイルを書き出す

QuickTime Pro には、書き出し時にビデオおよびオーディオを圧縮するためのさまざまな設定やオプションが用意されています。圧縮と書き出しのプロセスを簡素化するために、書き出しのプリセットも用意されています。ファイルフォーマットごとに異なるプリセットを使用できます。

プリセットを使用してムービーを書き出すには：

- 1 「QuickTime Player」で、書き出したいムービーを開きます。
- 2 「ファイル」>「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択します。
- 3 「書き出し」ポップアップメニュー（Mac OS X の場合）または「エクスポート」ポップアップメニュー（Windows の場合）からファイルフォーマットを選びます。
- 4 「出力」ポップアップメニューから、最も適したプリセットを選択します。

たとえば、ビデオ対応の iPod で使用するムービーを書き出すには、「ムービーから iPod」を選択します。

- 5 ファイル名と場所を選択して、「保存」をクリックします。

参考：最後の書き出し時に使用した設定と同じものを使用するには、「出力」ポップアップメニューから「最近使った設定」を選択します。

書き出し設定をカスタマイズする

メディアファイルを圧縮して書き出す際に可能な限り詳細な制御を行うには、QuickTime Pro で使用可能な書き出しオプションを使用します。

QuickTime Pro では、ビデオの圧縮および書き出し用のカスタマイズ可能な設定が、ビデオ設定、フィルタ（特殊効果とも呼ばれます）、およびイメージサイズの 3 つのカテゴリに分類して表示されます。QuickTime Pro には、サウンドの圧縮設定をカスタマイズするためのオプションも多数用意されています。

以降のトピックでは、ムービーの書き出しおよび圧縮を行う際に選択するオプションについて説明します。

ビデオの書き出し設定をカスタマイズする

ビデオ設定を書き出し用にカスタマイズするには：

- 1 「ファイル」>「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択します。
- 2 「書き出し」ポップアップメニュー（Mac OS X の場合）または「エクスポート」ポップアップメニュー（Windows の場合）からファイルフォーマットを選びます。
- 3 「オプション」をクリックします。
- 4 「ムービー設定」ダイアログの「ビデオ」領域で、「設定」をクリックし、設定を選択します。

- 「圧縮の種類」：ビデオの圧縮に使用するビデオ圧縮プログラム（コーデック）を選択します。最低のデータレート（または最小ファイル）で最高の品質を得るには、H.264 を推奨します。
- 「データレート（ビットレート）」：一般に、データレートが高いほど品質は良くなりますが、ファイルは大きくなります。ほとんどの場合、データレートは、ムービーが表示される方法に基づいて設定する必要があります。たとえば、インターネットダイヤルアップ接続にストリーミングする場合は、データレートを約 45 キロビット/秒に制限し、ネットワークトラフィックに余裕を持たせます。ファイルをダウンロードして再生する場合は、データレートを高くすることができます（ただし、56K モデムのユーザは再生開始までの待ち時間が長くなります）。ムービーのデータレートは、設定したフレームレートなどほかの圧縮オプションの影響も受けれます。圧縮プログラムが適切なデータレートを選択するには、「自動」を選択します。
- 「最適化」：「最適化」ポップアップメニューから、目的の配信方法を選択します。この設定により、選択したデータレートが上下にどれくらい変化する可能性があるかがコーデックに通知されます。このオプションは、H.264 などの制限を適用可能な圧縮プログラムでのみ使用できます。
- 「キーフレーム」のオプション：多くの圧縮プログラムでは、「フレームの相違」を使って動画を圧縮します。フレームの相違とは、先頭のフレーム（「キーフレーム」と呼ばれます）からそれ以降の複数のフレームで変化した情報を決定するプロセスのことです。キーフレームにはあるイメージのすべての情報が含まれます。キーフレームに続く複数のフレームには、変更された情報だけが含まれます。

使用する圧縮プログラムによっては、キーフレームの出現頻度を指定できます。十分な数のキーフレームがないと、ほとんどのフレームがほかのフレームから生成されることになるため、ムービーの画質が劣化することがあります。ただし、キーフレームの数が多いと、データレートがより高くなり、ムービーのサイズが大きくなります。一部の圧縮プログラムを使用している場合は、フレーム間のイメージの変化があまりにも大きくなると追加のフレームが自動的に挿入されます。経験則では、一般的な用途の場合、5 秒ごとにキーフレーム 1 つが妥当です（1 秒あたりのフレーム数に 5 を乗じます）。RTSP ストリーミング用のファイルを作成する場合に、配信ネットワークの信頼性に不安があるとき（公衆インターネットなど）は、キーフレームの頻度を 1 秒または 2 秒ごとにキーフレーム 1 つに増やすことができます。キーフレームの間隔を圧縮プログラムで決めるには、「自動」を選択します。

- 「フレームレート」：フレームレートとは、1 秒間に表示される独立したイメージの数のことです。標準（NTSC）ビデオのフレームレートは 29.97 フレーム/秒（fps）で、フィルムの標準は 24 fps です。ヨーロッパの標準（PAL）は 25 fps です。QuickTime ムービーは、帯域幅と CPU の要件を減らすために、低めのフレームレートで作成されることもあります。ムービーのフレームレートを高くするとモーションは良くなりますが、ファイルのサイズが大きくなります。ムービーの現在のフレームレートよりも低いフレームレートを選択すると、一部のフレームが削除されます。ムービーの現在のフレームレートよりも高い数値を選択すると、既存のフレームが複製されます（ファイルサイズは大きくなりますが品質は向上しないため、推奨できません）。フレームレートを選ぶときは、1/2、1/3 など、現在のフレームレートを単に割った数を使用します。たとえば、現在のフレームレートが 30（29.97）であれば、15 または 10 を使用します。

- その他のオプション：いくつかの圧縮プログラムまたはコーデックには、コーデックに固有のオプションが用意されています。圧縮プログラム（コーデック）を選択した後に特殊なオプションが表示されます。

QuickTime ムービーに特殊効果とフィルタを追加する

QuickTime Pro を使うと、ムービーを書き出す前に、ぼかし、エンボス、フィルムノイズなどの特殊効果をムービーに追加することができます。特殊効果はフィルタを使って追加します。

ムービーにフィルタを設定するには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ファイル」>「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択します。
- 2 「書き出し」ポップアップメニュー（Mac OS X の場合）または「エクスポート」ポップアップメニュー（Windows の場合）から「ムービーから QuickTime ムービー」を選びます。
- 3 「オプション」をクリックし、「フィルタ」をクリックして、使用するフィルタとその設定を選択します。

選択したフィルタはムービー全体に適用されます。

イメージ（フレーム）サイズを変更する

QuickTime Pro では、ムービーのビデオフレームのサイズを変更できます。たとえば、ムービーを（モバイル装置などの）小さい画面に表示する場合は、対象の装置に合わせてムービーのサイズを変更できます。特定のデータレートのフレームサイズを小さくしてエンコーディングの結果が向上するかどうか、実験することができます。

ムービーのビデオフレームのサイズを変更するには：

- 1 「ファイル」>「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択します。
- 2 「書き出し」ポップアップメニュー（Mac OS X の場合）または「エクスポート」ポップアップメニュー（Windows の場合）からファイルフォーマットを選びます。
- 3 「オプション」をクリックします。
- 4 「ムービー設定」ダイアログの「ビデオ」領域で、「サイズ」をクリックし、オプションを選択します：
 - 「現在のサイズを使う」：このオプション（デフォルト）では、書き出したムービーのイメージサイズをオリジナルのソースムービーと同じサイズに保持します。
 - 「カスタムサイズを使う」：このオプションを選択すると、書き出したムービーのイメージサイズの高さと幅を指定できます（ピクセル単位）。最良の結果を得るためには、ソースムービーより小さいサイズを選択し、高さとの比率をソースと同じに保持します（オブジェクトがゆがんで見えないようにします）。

サウンドの書き出し設定をカスタマイズする

サウンド設定を書き出し用にカスタマイズするには：

- 1 「ファイル」 > 「書き出し」（Mac OS X の場合）または 「エクスポート」（Windows の場合）と選択します。
- 2 「書き出し」 ポップアップメニュー（Mac OS X の場合）または 「エクスポート」 ポップアップメニュー（Windows の場合）から 「ムービーから QuickTime ムービー」 を選びます。
- 3 「オプション」 をクリックします。
- 4 「ムービー設定」ダイアログの「サウンド」領域で、「設定」をクリックし、オプションを選択します。
 - 「フォーマット」：サウンドの圧縮に使用する圧縮プログラム（コーデック）を選択します。一般的な用途および音楽のインターネット配信の場合は、MPEG-4 オーディオ（AAC）を推奨します。
 - 「チャンネル」：モノラル（1 チャンネル）またはステレオ（2 チャンネル）のいずれかを選択します。
 - 「レート」：デジタル化されたサウンドは複数のサウンドサンプルから構成されます。1 秒間当たりのサンプル数が多いほど、サウンドの音質は高くなります。音楽は幅広い範囲の周波数を使用しているため、音質を維持するためには、音声よりも高いサンプルレートが必要になります。オーディオ CD は 44.1 kHz（キロヘルツ）のサンプルレートを使用します。
 - 「レンダリング設定」：使用する信号処理の品質を選択します。品質の設定が高いほど、処理にかかる時間が長くなります。
 - その他のオプション：選択したコーデックに固有のオプションがある場合にそのオプションを表示するには、「オプション」 ボタンが使用可能な場合はそのボタンをクリックします。

インターネット配信用のムービーを準備する

QuickTime Pro を使用して、インターネット経由で配信可能なムービーを作成できます。ムービーは、以下の 2 つの方法でインターネットを経由して配信できます：

- HTTP を使ったダウンロードにより、ムービーはクライアントのハードディスクにダウンロードされます。「ファストスタート」は、標準の Web サーバからハードディスクにメディアをダウンロードしている間（ムービー全体のダウンロードが完了するずっと前から）、メディアを視聴できるようにする QuickTime の機能です。ファストスタートは、ファイルサイズが限られている短い形式のムービーに適しています。ファストスタートでは、ユーザのインターネット接続速度にかかわらず高い品質の再生が保証されますが、接続速度が遅いとメディアの再生が開始されるまでの待ち時間が長くなります。
- QuickTime Streaming Server (QTSS) により提供されるリアルタイム・ストリーミングでは、モデムからブロードバンドにおよぶ通信速度で、メディアが、インターネットを経由してリアルタイムで配信されます。ファイルは、視聴者のハードディスクにはダウンロードされません。メディアは、クライアントソフトウェアが配信されるときにそのクライアントソフトウェアによって再生されますが、保存はされません。ライブイベントの Web キャスト、長い形式のビデオの配信、24 時間放送のインターネットラジオおよびテレビのチャンネル、およびファイルをユーザのハードディスクに保存しないその他の場合は、ファストスタートではなく、リアルタイム・ストリーミングを選択できます。QTSS では RTSP プロトコルを使用します。

ムービーをファストスタート用に準備する

QuickTime Pro では、ムービーがユーザのハードディスクに完全にダウンロードされる前に、Web サーバからの再生を開始するようにムービーを設定できます。これは、「ファストスタート」ムービーと呼ばれています。

ムービーを配信する前にファストスタートの設定を確認してください。ほかの変更を加えて再保存すると、ファストスタート設定が取り消されることがあります。

ムービーが目的のフォーマットになっている場合は、「ファイル」>「別名で保存」(Mac OS X の場合) または「名前を付けて保存」(Windows の場合) と選択してから「独立再生形式のムービーとして保存」を選択して、ムービーをファストスタート用に設定できます。ムービーが目的のフォーマットになっていない場合は、最初に以下の手順に従ってエンコードする必要があります。

ムービーを変換してファストスタート用に設定するには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ファイル」>「書き出し」(Mac OS X の場合) または「エクスポート」(Windows の場合) と選択します。
- 2 「書き出し」ポップアップメニュー (Mac OS X の場合) または「エクスポート」ポップアップメニュー (Windows の場合) から「ムービーから QuickTime ムービー」を選びます。
- 3 「オプション」をクリックし、Web 配信に最適なビデオとサウンドの圧縮オプションを選択します。
詳しくは、43 ページの「ビデオの書き出し設定をカスタマイズする」、46 ページの「サウンドの書き出し設定をカスタマイズする」、および www.apple.com/jp/quicktime/tools_tips/tutorials/ のチュートリアルを参照してください。
- 4 「インターネットストリーミングを準備」チェックボックスがチェックされていて、ポップアップメニューに「ファストスタート」と表示されていることを確認します。

ムービーをリアルタイム・ストリーミング用に準備する

QuickTime Pro を使用して、インターネット経由でストリーミングされるムービーを設定できます。これを行うには、データレートがユーザが接続する際の帯域幅に最適になるように、ムービーを圧縮する必要があります。

ヒントストリーミングフォーマットは、QuickTime Streaming Server または Darwin Streaming Server と一緒に使用するためのものです。ヒントストリーミングを選ぶと、「ヒント・トラック」(ムービーのストリーミングに必要な情報) がムービーに追加されます。ムービーがまだ目的のフォーマットになっていない場合は、「ファイル」>「書き出し」(Mac OS X の場合) または「エクスポート」(Windows の場合) と選択してから「ムービーからヒントムービー」を選んで、ムービーをストリーミング用に準備することができます。ムービーのフォーマットを変更する場合は、以下の手順に従います。

ムービーをインターネットストリーミング用に設定するには：

- 1 「QuickTime Player」で、「ファイル」>「書き出し」(Mac OS X の場合) または「エクスポート」(Windows の場合) と選択します。
- 2 「書き出し」ポップアップメニュー (Mac OS X の場合) または「エクスポート」ポップアップメニュー (Windows の場合) から「ムービーから QuickTime ムービー」を選びます。

- 3 「出力」ポップアップメニューからストリーミングオプションを選びます。
- 4 「オプション」をクリックし、「インターネットストリーミングを準備」チェックボックスをチェックします。
- 5 ポップアップメニューから「ストリーミング」を選びます。

QuickTime Streaming Server を使って、QuickTime ムービーをストリーミングするときは、Web に最適なビデオまたはオーディオ圧縮プログラムを使ってムービーファイルを圧縮する必要があります。QuickTime に対応した圧縮プログラムであれば、QuickTime Streaming Server と互換性がありますが、特にここにあげた圧縮プログラムは QuickTime Streaming Server に最適化されているため、インターネット経由での配信で最良の結果を得ることができます。QuickTime が対応している全圧縮プログラムのリストについては、QuickTime の Web サイトの「製品」の欄 (www.apple.com/jp/quicktime/products/) を参照してください。

- ビデオ圧縮プログラム：H.264、MPEG-4、Sorenson Video（すべてのバージョン）、H.263、H.261
- オーディオ圧縮プログラム：AAC、QUALCOMM PureVoice、AMR、QDesign

ストリーミング用のムービーの準備について詳しく知りたいときは、http://www.apple.com/jp/quicktime/tools_tips/tutorials/ を参照してください。

リファレンスマービーを作成して Web 再生を最適化する

リファレンスマービーを使用して、ユーザの接続速度の違いに応じて適切なムービーを提供できます。たとえば、標準のモデムで接続しているユーザには小さめのムービーをストリーミングし、ブロードバンド接続で接続しているユーザには大きめのムービーをストリーミングすることができます。

アップルでは、リファレンスマービーの作成プロセスを大幅に簡素化する「MakeRefMovie X」という無償ツールを提供しています。このソフトウェアは、次の Web サイトでダウンロードできます：

developer.apple.com/quicktime/quicktimeintro/tools/

MPEG-4 ファイルを書き出す

MPEG-4 は、モバイルのマルチメディアから HD (High Definition) のメディアまでさまざまな帯域幅で、プロ品質のオーディオおよびビデオを配信するための、最新の世界規模の業界標準です。別の MPEG-4 装置で操作するファイルを作成する場合は、QuickTime Pro を使用してムービーを書き出すことにより MPEG-4 コンテンツを作成します。

ファイルを MPEG-4 フォーマットに書き出すには：

- 1 「QuickTime Player」で、書き出したいムービーを開き、「ファイル」>「書き出し」(Mac OS X の場合) または「エクスポート」(Windows の場合) と選択します。
- 2 「書き出し」ポップアップメニュー (Mac OS X の場合) または「エクスポート」ポップアップメニュー (Windows の場合) から「ムービーから QuickTime ムービー」を選びます。

ファイルフォーマット、圧縮、配信制限などの設定を調整するには、「オプション」をクリックします。選択するオプションは、ファイルを配信するネットワーク、および視聴者の接続によって異なります。以降のセクションでは、オプションについて詳しく説明します。

MPEG-4 ビデオの書き出しオプション

ムービーを MPEG-4 フォーマットに書き出す場合（「ファイル」 > 「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択し、「ムービーから MPEG-4」を選択）、「オプション」をクリックして「ビデオ」をクリックすることにより、以下のオプションを利用できます。

- 「ファイルフォーマット」：ISMA メンバーにより製造された機器での操作可能性を確保するには、「MP4 (ISMA)」を選択します。詳しくは、www.isma.tv/ を参照してください。
- 「ビデオフォーマット」：ビデオの圧縮に使用するビデオ圧縮プログラム（コーデック）を選択します。最低のデータレート（または最小ファイル）で最高の品質を得るには、H.264 を推奨します。MPEG-4 ビデオに対応した装置でファイルを再生する必要がある場合は、対象となる装置に応じて、「MPEG-4 標準品質」または「MPEG-4 高品質」を選択します。ソースムービーのビデオトラックが圧縮済みの場合は、「そのまま」を選び、ビデオが再度圧縮されないようにすることができます。
- 「データレート」：1 秒あたりのキロビット数 (kbps) が多いほど、ムービーの画質は高くなります。ただし、再生を最適化するために、選択したデータレートが利用できる帯域幅を超えないようにしてください。
- 「最適化」：「ビデオフォーマット」ポップアップメニューから「H.264」を選択する場合は、「最適化」ポップアップメニューから必要な配信方法を選択します。この設定により、選択したデータレートが上下にどれくらい変化する可能性があるかがコーデックに通知されます。
- 「イメージサイズ」：「現在のサイズ」では、ソースのサイズがそのまま保持されます。ポップアップメニューに表示されないサイズを選択するには、「カスタム」を選択します。
- 「指定のアスペクト比を保持」：イメージサイズを変更する場合は、ムービーを新しいサイズに調整する必要があるときにこのオプションを使用してオプション値を指定します。「レターボックス」では、ソースを比例的にサイズ調整してクリーンアパーチャに収まるようにし、必要に応じて上下または両側に黒いバーを追加します。「切り取る」では、クリーンアパーチャに合わせて中央揃え、サイズ調整、およびトリムを行います。「サイズ内に収める」では、必要に応じて最も長い側が収まるようにサイズ調整して、対象のサイズに調整します。
- 「フレームレート」：ほとんどの場合、ソースの FPS の約数を選ぶと、ビデオの再生品質が良くなります。たとえば、ソースを 30 FPS で取り込んだ場合は、フレームレートとして 10 または 15 を選びます。ソース素材よりも大きなレートを選択しないでください。
- 「キーフレーム」：キーフレームを指定する回数を多くします。数が少ないほど、ビデオの画質が高くなりますがファイルのサイズは大きくなります。

「ファイルフォーマット」ポップアップメニューから「MP4」を選び、「ビデオフォーマット」ポップアップメニューから「H.264」を選んで、「ビデオ・オプション」をクリックすると、以下の追加オプションが表示されます：

- 「プロファイルの制限」：1 つ以上の標準のプロファイルに適合する装置でファイルを再生する必要がある場合は、ここでそれらのプロファイルをチェックします。

- 「エンコーディングモード」：最良の品質を求めるか、エンコーディングの速度を優先するかを選択します。

MPEG-4 オーディオの書き出しオプション

ムービーを MPEG-4 フォーマットに書き出す場合（「ファイル」 > 「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択し、「ムービーから MPEG-4」を選択）、「オプション」をクリックして「オーディオ」をクリックすることにより、以下のオプションを利用できます。

- 「オーディオフォーマット」：オーディオ圧縮プログラム（コーデック）をここで選択します。ソースムービーに含まれるオーディオトラックが 1 つだけで、ムービーが圧縮済みの場合は、「そのまま」を選んで、オーディオが再度圧縮されないようにできます。
- 「データレート」：ビデオと同様に、1 秒あたりのキロビット数が多いほど、オーディオの音質が高くなります。
- 「チャンネル」：モノラル（1 チャンネル）またはステレオ（2 チャンネル）のいずれかを選択します。
- 「出力のサンプルレート」：AAC オーディオでのみ使用できます。サンプルレートを対象装置のレートに合わせるのが最適です。
- 「エンコードの品質」：AAC オーディオでのみ使用できます。「標準品質」設定は、最高速度のエンコーディングに最適化されています。品質を高めるには、16 ビットオーディオの場合は「最高」を選択し、オーディオソースが 24 ビットの場合は「高品質」を選択します。

MPEG-4 ストリーミングの書き出しオプション

ムービーを MPEG-4 フォーマットに書き出す場合（「ファイル」 > 「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択し、「ムービーから MPEG-4」を選択）、「オプション」をクリックして「ストリーミング」をクリックすることにより、以下のオプションを利用できます。

書き出したファイルを RTSP ストリーミングを使用して配信する場合は、「ストリーミングを使用」を選択します。

ストリーミングされたデータは、小さなサイズのパケットで送信する必要があります。一部のネットワークでは、パケットサイズとパケット持続時間に制限があります。ネットワークプロバイダからサイズの制限に関する情報が提供される場合は、パケットサイズと最大パケット持続時間を変更して、配信用のネットワークに合わせることができます。それ以外の場合は、デフォルト値を使用します。

3G ファイルを書き出す

「QuickTime Player」では、3G ネットワークで使用するファイルを読み込んで再生することができます。3G ネットワークは、モバイル装置間でマルチメディアの送信を可能にする高速モバイルネットワークです。QuickTime は、ほとんどすべての種類の 3G モバイルネットワークの規格に対応しています。

3G ファイルを読み込むには、「ファイル」 > 「ファイルを開く」と選択し、ファイルを選択します。「Dock」の QuickTime アイコンにファイルをドラッグするか、ファイルをダブルクリックして 3G ファイルを QuickTime で開くこともできます (Mac OS X のみ)。

QuickTime Pro を使用して、QuickTime が対応している多数の 3G フォーマットのいずれかに、ビデオ、オーディオ、およびテキストを書き出すことができます。

ファイルを 3G フォーマットに書き出すには：

- 1 「QuickTime Player」で、書き出したいムービーを開き、「ファイル」 > 「書き出し」(Mac OS X の場合) または 「エクスポート」(Windows の場合) と選択します。
- 2 「書き出し」ポップアップメニュー (Mac OS X の場合) または 「エクスポート」ポップアップメニュー (Windows の場合) から 「ムービーから 3G」を選びます。

ファイルフォーマット、圧縮、配信制限などの設定を調整するには、「オプション」をクリックします。選択するオプションは、ファイルの配信に使用するモバイルネットワークおよび受信者の電話の機能によって異なります。以降のセクションでは、オプションについて詳しく説明します。

3G ファイルフォーマットの書き出しオプション

「ファイル」 > 「書き出し」(Mac OS X の場合) または 「エクスポート」(Windows の場合) と選択して 「オプション」 をクリックした場合、「ファイルフォーマット」ポップアップメニューの最初の 2 つの項目は標準のフォーマットです。

- 3GPP は、GSM ネットワーク用のフォーマットです。このフォーマットでは、次のメディアを使用できます：
 - MPEG-4、H.263、または H.264 ビデオ
 - AAC または AMR オーディオ
 - 3G Timed text
- 3GPP2 は、CDMA 2000 ネットワーク用のフォーマットです。このフォーマットでは、次のメディアを使用できます：
 - MPEG-4、H.263、または H.264 ビデオ
 - AAC、AMR、または QCELP オーディオ
 - 3G Timed text
 - ムービーの断片 (長いムービーの場合でも、すぐに再生を開始できます。端末では、ムービー全体ではなく、ムービーの断片でないと利用できないためです)

ほかのフォーマットは、特定のネットワーク用に用意されています。これらのフォーマットでは、配信を制限して、受信者の電話機からファイルを共有できないようにすることができます (このオプションは「詳細」パネルで設定します)。これらのフォーマットでは、転送できるファイルサイズまたはデータレートに制限がある場合があります。詳しくは、サービスプロバイダにお問い合わせください。

- 3GPP (Mobile MP4) は、NTT DoCoMo の “i-motion” 3G サービス用のフォーマットです。このフォーマットでは、すでに説明した 「3GPP」 のメディアを使用できます。

- 3GPP2 (EZ ムービー) は、KDDI の 3G ネットワークサービス用のフォーマットです。このフォーマットでは、AMR オーディオを除いて、すでに説明した「3GPP2」と同じメディアを使用できます。
- AMC (EZ ムービー) は、AMC 機能付き電話を使用する KDDI の加入者用のフォーマットです。このフォーマットでは、次のメディアを使用できます：
 - MPEG-4 ビデオ
 - QCELP オーディオ
 - KDDI のテキストフォーマット

3G ビデオの書き出しオプション

- 「ビデオフォーマット」：ソースムービーに 1 つのビデオトラックしかなく、ビデオがすでに圧縮されている場合は、「そのまま」を選ぶことができます（ビデオが再び圧縮されないようにするため）。
- 「データレート」：1 秒あたりのキロビット数 (kbps) が多いほど、ムービーの画質は高くなります。ただし、再生を最適化するために、選択したデータレートが利用できる帯域幅を超えないようにしてください。
- 「最適化」：「ビデオフォーマット」ポップアップメニューから「H.264」を選択する場合は、「最適化」ポップアップメニューから必要な配信方法を選択します。この設定により、選択したデータレートが上下にどれくらい変化する可能性があるかがコーデックに通知されます。
- 「イメージサイズ」：ファイルを携帯電話に送信する場合は、いずれかの基準を選びます。「現在のサイズ」を選択すると、ソースマテリアルのサイズが保持されます。その結果、携帯電話でファイルが再生されない場合があります。ポップアップメニューに表示されないサイズを選択するには、「カスタム」を選択します。
- 「指定のアスペクト比を保持」：イメージサイズを変更する場合は、ムービーを新しいサイズに調整する必要があるときにこのオプションを使用してオプション値を指定します。「レターボックス」では、ソースを比例的にサイズ調整してクリーンアパーチャに収まるようにし、必要に応じて上下または両側に黒いバーを追加します。「切り取る」では、クリーンアパーチャに合わせて中央揃え、サイズ調整、およびトリムを行います。「サイズ内に収める」では、必要に応じて最も長い側が収まるようにサイズ調整して、対象のサイズに調整します。
- 「フレームレート」：ほとんどの場合、ソースの FPS の約数を選ぶと、ビデオの再生品質が良くなります。たとえば、ソースを 30 FPS で取り込んだ場合は、フレームレートとして 10 または 15 を選びます。ソース素材よりも大きなレートを選択しないでください。
- 「キーフレーム」：キーフレームを指定する回数を多くします。数が少ないほど、ビデオの画質が高くなりますがファイルのサイズは大きくなります。

「ビデオ・オプション」をクリックすると、以下の追加オプションを使用できます：

- 「再同期マーカー」：再同期マーカーをビデオフレーム内に追加すると、ストリーミング実行時にパケットの損失を修復するのに役立ちます。
- 「エンコーディングモード」：H.264 ビデオでは、プレビュー時などに、「高速エンコード (1 回実行)」を選択することで圧縮処理を高速化できます。デフォルトのオプションである「最高品質 (複数回実行)」では、データを最高品質で圧縮するのに必要な回数がコーデックにより決定されます。

3G オーディオの書き出しオプション

ムービーを 3G フォーマットに書き出す場合（「ファイル」 > 「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択し、「ムービーから 3G」を選択）、「オプション」をクリックしてから「オーディオ」をクリックすることにより、以下のオプションを利用できます。

- 「オーディオフォーマット」：ソースムービーに 1 つのオーディオトラックしかなく、オーディオがすでに圧縮されている場合は、「そのまま」を選ぶことができます（オーディオが再び圧縮されないようにするため）。
- 「データレート」：ビデオと同様に、1 秒あたりのキロビット数が多いほど、オーディオの音質が高くなります。
- 「チャンネル」：モノラル（1 チャンネル）またはステレオ（2 チャンネル）のいずれかを選択します。
- 「フレーム／サンプル」：AMR オーディオでのみ使用できます。このオプションを使用すると、書き出したオーディオデータをより効果的にパッケージ化することができます。
- 「無音検出」：AMR オーディオでのみ使用できます。このオプションを使用すると、信号レベルの低いオーディオ部分が検出され、それに応じて出力のデータレートが調整されます。
- 「出力のサンプルレート」：AAC オーディオでのみ使用できます。サンプルレートを対象装置のレートに合わせるのが最適です。
- 「エンコードの品質」：AAC オーディオでのみ使用できます。「最高」を選ぶと、オーディオ品質が最も高くなりますが、エンコードに時間がかかります。

3G テキストオプション

ムービーを 3G フォーマットに書き出す場合（「ファイル」 > 「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択し、「ムービーから 3G」を選択）、「オプション」をクリックしてから「テキスト」をクリックすることにより、以下のオプションを利用できます。

3G テキストのオプションは、ムービーにテキスト・トラック（クレジット、タイトル、字幕など）が含まれている場合のみ利用できます。

装置によっては、ムービーに含まれるテキストを再生できない場合があります。受信側の装置でテキストを表示できる場合のみムービーを再生できるようにするときは、「端末のテキスト機能を必要とする」を選びます。このチェックボックスの選択を解除すると、装置でテキストを表示できない場合でもオーディオとビデオを再生できるようになります。

3G ストリーミングオプション

ムービーを 3G フォーマットに書き出す場合（「ファイル」 > 「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択し、「ムービーから 3G」を選択）、「オプション」をクリックしてから「ストリーミング」をクリックすることにより、以下のオプションを利用できます。

「QuickTime Player」への RTSP ストリーミング用ファイルを作成するときは、「ストリーミングを使用」を選びます。このオプションを使用すると、ヒント・トラック（ファイルのストリーミングに必要な情報）が作成されます。

「サーバ用に最適化」を使用すると、サーバはより高速にファイルを処理できますが、ファイルのサイズが大きくなります。

3G 詳細オプション

ムービーを 3G フォーマットに書き出す場合（「ファイル」>「書き出し」（Mac OS X の場合）または「エクスポート」（Windows の場合）と選択し、「ムービーから 3G」を選択）、「オプション」をクリックしてから「詳細」をクリックすることにより、以下のオプションを利用できます。

ファイルが Mobile MP4 または EZ ムービーフォーマットの場合は、ファイルを端末にダウンロードすると、ほかの場所に送信したりコピーできないように、配信を制限することができます。ダウンロードしたファイルを端末で再生できる回数を指定したり、特定の日数が経過したときまたは特定の日付になったときにファイルの有効期限が切れるようにしたりできます。

「ムービーを断片化」を使用すると、HTTP を使ってファイルを小さな断片でダウンロードすることができます。これにより、再生をより早く開始することができ、大きなファイルを端末で再生することができます（端末にムービー全体を一度に収めるのではなく、断片のみを収めればよいため）。

ショートカットとヒント

QuickTime を効率良く使用するのに役立つキーボードショートカットおよびその他のヒントについて説明します。

QuickTime Player のキーボードショートカット

「QuickTime Player」および QuickTime Pro には、ほとんどの再生オプションのためのキーボードショートカットが用意されています。使用可能な場合は、各ショートカットが関連メニュー項目の右に表示されます。いくつかのキーボードショートカットの中には相当するメニューがないものもあります。

コントロールの内容	キー (Mac OS X)	キー (Windows)
再生/一時停止	スペースバー	スペースバー
すべてのムービーを再生する/ 一時停止する	コマンド + Return	Ctrl + Enter
ムービーの逆再生	Shift + ダブルクリック コマンド + 左矢印	Shift + ダブルクリック
再生を停止して 1 フレーム戻る	左矢印	左矢印
再生を停止して 1 フレーム進む	右矢印	右矢印
選択範囲またはムービーの開始位置 に移動する	Option + 左矢印	Ctrl + 左矢印
選択範囲またはムービーの終了位置 に移動する	Option + 右矢印	Ctrl + 右矢印
音量を上げる	上矢印	上矢印
音量を下げる	下矢印	下矢印
音量を最大レベルまで上げる	Option + 上矢印	Ctrl + 上矢印
音量を最小レベルまで下げる	Option + 下矢印	Ctrl + 下矢印

QuickTime Pro のキーボードショートカット

操作	キー (Mac OS X)	キー (Windows)
フルスクリーンモードにする	コマンド+F	Ctrl + F
フルスクリーンモードを解除する	コマンド+ピリオドまたは Esc	Ctrl +ピリオドまたは Esc
ムービーを半分のサイズで再生する	コマンド+0	Ctrl + 0
ムービーを通常のサイズで再生する	コマンド+1	Ctrl + 1
ムービーを2倍のサイズで再生する	コマンド+2	Ctrl + 2
ムービーをフルサイズで再生する	コマンド+3	Ctrl + 3
インのマーカを再生ヘッドの位置に移動する		
アウトのマーカを再生ヘッドの位置に移動する	O	O
選択範囲を左に広げる	Option + Shift + 左矢印	
選択範囲を右に広げる	Option + Shift + 右矢印	
画面上でクリックしたポイントまで 選択範囲を広げる	Shift + クリック	

AppleScript で QuickTime Player を自動化する

Mac OS X では、AppleScript を使って「QuickTime Player」の機能を自動化できます。たとえば、ムービーを開いて指定した時間だけ再生させたり、ムービーを別の形式に変換したり、トラックの再生に関するプロパティ（開始時間、音量、レイヤーなど）を調節したり、著作権や作者に関するムービーのプロパティを調整したりすることができます。

「QuickTime Player」をコントロールするための AppleScript の全コマンドについては、AppleScript をインストールして、「QuickTime Player」の AppleScript 用語説明を参照してください。

- 1 「スクリプトエディタ」を開きます。
- 2 「ファイル」>「用語説明を開く」と選択します。
- 3 「QuickTime Player」を選びます。

「QuickTime Player」のサンプルスクリプトについては、AppleScript の Web サイト (www.apple.com/applescript/quicktime/) を参照してください。

Windows で QuickTime Player を自動化する

Windows では、JavaScript、Visual Basic、またはその他の Active Scripting 言語を使用して、「QuickTime Player」の機能を自動化できます。Mac OS X の AppleScript と同様に、ムービー再生を制御したり、ムービーを別の形式に変換したり、ムービーおよびトラックのプロパティを調整したりできます。

使用可能な QuickTime Player オブジェクトは 3 つあります：

- QuickTimePlayerApp
- アプリケーションオブジェクト。このオブジェクトには Players プロパティがあります。このプロパティは、QuickTime Player ウィンドウのコレクションを返します。Quit メソッドは、プログラムを終了します。
- QuickTimePlayers
- プレーヤーのウィンドウを列挙するときは、このオブジェクトを使用します。Remove メソッドおよび Add メソッドは、新しい QuickTime Player ウィンドウの削除および作成を許可します。
- QuickTimePlayer
- このオブジェクトには、ムービーを開く、ウィンドウの位置と外観を制御する、およびウィンドウのメニューと対話するためのプロパティとメソッドがあります。QTControl プロパティは、ウィンドウのムービーを管理する ActiveX コントロールを返します：

QuickTime Player インターフェイスまたは QuickTime Control インターフェイスを詳しく調べるには、COM オブジェクトブラウザで Apple QuickTime Player Library 1.0 インターフェイスまたは Apple QuickTime Control 2.0 インターフェイスを参照してください。

AIFF (Audio Interchange File Format) Web 上で広く使用されているオーディオファイルフォーマット。

BMP Windows 環境で静止イメージに使われるビットマップ化したグラフィックスフォーマット。

Darwin Streaming Server インターネット経由でリアルタイムにメディアを配信するためのテクノロジー。「Darwin Streaming Server」は、アップルのQTSS (QuickTime Streaming Server) と同じコードに基づいたオープンソースのストリーミングサーバです。

GIF (Graphics Interchange Format) イメージ用のファイルフォーマット。

JPEG (Joint Photographic Experts Group) 静止イメージを圧縮するための規格。

MIDI (Musical Instrument Digital Interface) 音楽業界によって定められたソフトウェアおよびハードウェアの規格。電子楽器間、または電子楽器とコンピュータ間の通信を可能にします。

MP3 (MPEG-1 レイヤー 3) 音楽を圧縮するためのフォーマット。

MPEG-4 QuickTime ファイルフォーマットに基づく、マルチメディアファイルと圧縮フォーマットを定義する ISO 規格。

NTSC (National Television System Committee) 北米の放送規格を定義する組織。「NTSC ビデオ」という用語も、この委員会が定義したビデオ規格を指します。NTSC ビデオは、29.97 fps で 1 フレーム当たり 525 ラインのインターレースです。

PAL (Phase Alternation by Line) 北米以外の欧州その他の国で使われているビデオフォーマット。PAL 規格は、25 fps で 1 フレーム当たり 625 ラインのインターレースです。

PICT Macintosh のピクチャファイルフォーマット。イメージに圧縮を適用しないため、コピーしても同じ品質レベルが保持されます。

PNG (Portable Network Graphics) イメージ用のファイルフォーマット。

QTSS (QuickTime Streaming Server) インターネット経由でリアルタイムにメディアを配信するために使われるテクノロジー。

QuickTime Player QuickTime ムービー、およびその他さまざまな種類のファイルを開いて作成するアプリケーション。

QuickTime Pro 「QuickTime Player」に拡張機能（主に編集機能の追加）を搭載したバージョン。

QuickTime VR ユーザが3次元の場所やオブジェクトと対話するために使用できる QuickTime のメディアタイプ。

RGB 赤 (Red)、緑 (Green)、青 (Blue) の意。画面上で色を表現する方法。

RTSP (Real-Time Streaming Protocol) リアルタイムマルチメディアコンテンツのストリームを制御するためのプロトコル。データのソースは、ライブフィードと保存されたデジタルビデオの両方を含むことができます。

TIFF (Tagged Image File Format) グラフィックス用のフォーマット。通常、アプリケーション間のビットマップイメージの転送に使われます。

Tweenトラック ほかのトラックの表示を変更するトラック。

VR (Virtual Reality : バーチャルリアリティ) QuickTime VR によって実現される効果。ユーザがオブジェクトや環境を操作できます。

wav サウンドファイル用の Windows フォーマット。

アスペクト比 イメージの縦横比。

圧縮 ファイルのデータサイズを小さくする処理。

インスタントオン ブロードバンドユーザ用のストリーミングコンテンツへのアクセスを大幅に改善するテクノロジー。

オーディオチャンネル オーディオトラックには、オーディオデータのチャンネルを1つ以上含めることができます。各チャンネルは、特定のスピーカーに送られるサウンドを表します。たとえば、ステレオトラックには2つのオーディオチャンネルが含まれます。

オーディオチャンネルラベル 各オーディオチャンネルには、サウンドの送信先を示すラベルを付けることができます。通常、ステレオトラックでは、チャンネルに「左」および「右」というラベルが付けられます。5.1サラウンドサウンドトラックには、「左」、「右」、「中央」、「左サラウンド」、「右サラウンド」、「LFE スクリーン」（サブウーファー）用のラベルが存在します。

コーデック 「compressor/decompressor（圧縮プログラム／伸張プログラム）」に由来。コーデックは、データの圧縮と伸張のためのテクノロジーです。コーデックは、ソフトウェア、ハードウェア、または両者の組み合わせの形で実装できます。コーデックには、「非可逆」または「可逆」のいずれかを選択できます。これは、圧縮時にデータが失われるかどうかを示します。

ストリーミング ネットワーク経由のビデオまたはオーディオデータのリアルタイム配信。ダウンロードは単一のファイルではなく、パケット単位で行われます。

スプライト 一度定義されてから、位置や外観を変更するコマンドによってアニメートされるイメージ。

帯域幅 データを伝送するためのネットワーク接続の容量をビット/秒またはバイト/秒 (bps または Bps) で測定したもの。

チャプタリスト ムービー内の「場所」のリスト。ユーザは、チャプタリストから項目を選択して、ムービー内の対応するポイントに移動することができます。

トラック QuickTime ムービー内の単一のデータ・タイプ。1つのムービーには1つまたは複数のトラックが含まれることがあります。

ノード QuickTime VR では、オブジェクトやパノラマを表示できるポイント。

ピクセル (pixel) テキストやグラフィックスを形成する画面上のドット。「ピクチャ (picture)」および「要素 (element)」という語を短縮したもの。

ビットマップ化 ピクセルで表現すること。

ヒント・トラック ストリーム・ムービーでは、ヒント・トラックによりサーバがムービーの内容を転送する方法が指定されます。

ファストスタート ダウンロードが完了する前に再生を開始できるようにムービーを配信する方法。

プラグイン Web ブラウザが特定の種類のメディアファイルを解釈するのを助けるソフトウェア。

フレーム ムービー内の単一のイメージ。

フレームレート 1秒あたりに表示されるフレームの数。

プロトコル ネットワーク上で情報を送受信するための標準のセット。

ポスター QuickTime では、ユーザにムービーを提示するために使われる静止イメージで、通常はムービーの単一フレーム。

ホットスポット ユーザがマウスを使ってムービーと対話できるバーチャルリアリティムービー内の場所。

リファレンスマービー 1つまたは複数のメディアファイルの場所を含むファイル。たとえば、Web ページからリンクされたリファレンスファイルによって、QuickTime Player に、接続速度別にエンコードされたバージョンを提供することができます。

レイヤー QuickTime ムービーでは、イメージの表示方法はそのレイヤーによって異なります。レイヤー番号が小さいイメージは前面に表示されます。

1 回実行モード 52
3G ファイル
書き出す 50-53

A

AppleScript 56
A/V コントロール 18

H

HomePage 28
HTTP 14

K

kiosk モードを使用チェックボックス 20

M

MIDI 16
MIME 設定 15
MPEG-4 ファイル
書き出す 48-50

Q

QuickTime 7 の新機能 7
QuickTime Player の環境設定 18
QuickTime Pro
定義 6
入手する 21
QuickTime VR ムービー 15
QuickTime ストリーミング 47
QuickTime の Web サイト 13
QuickTime プラグイン 12
QuickTime ムービーを編集する 29-38

R

RTSP 14

W

Web → 「インターネット」を参照

あ

アニメーション 27

い

イコライザ 11, 19
イメージシーケンスを開くコマンド 27
色
ムービーの境界～を変更する 23
インスタントオン・ストリーミング 14
インターネット
～からムービーを保存する 26
～経由でムービーを共有する 28
～配信用のムービーを準備する 46-48
接続速度 14

え

エンコーディングモード 52

お

オーディオ
オーディオトラックを追加する 32
オーディオコントロール 18, 33
オーディオとビデオを圧縮する 42-53
オーディオとビデオを記録する 25
音量 11, 33
再生中に調整する 12
サウンドトラックの音量を変更する 33

か

環境設定 18

き

キーフレームオプション 44
キーボードショートカット 55
キャッシュチェックボックス 23

く

繰り返し再生する 20

け

言語 36

こ

高音レベル 18, 33
項目をムービーにペーストする 34

このトラックをあらかじめ読み込むチェックボックス 23, 40
コピー防止されているムービー 17
コンテンツガイド 19

さ

最近使った項目を開くコマンド 17
サイズ
 ムービーを変更する 19, 45
再生オプション 13, 18, 40
再生ヘッド 11
サウンドを再生する 19
サブタイトル 20

し

システムの要件 9
消音チェックボックス 31, 33
ジョグシャトル 18

す

ストリーミング 47
スライドショー 23, 27
 静止イメージから作成する 27

せ

静止イメージ
 QuickTime ムービーからフレームを書き出す 28
 スライドショーに変換する 27
 表示する/修正する 16
接続速度 14
選択範囲にトリム 30

そ

そのまま 53
ソロチェックボックス 31, 33

た

タイトル 20
ダウンロードキャッシュを空にするチェックボックス 13

ち

チャプタリスト 12, 38
注釈 37

て

低音レベル 18, 33
ディスクキャッシュ 13
ディスクキャッシュに保存チェックボックス 13
ディスプレイ
 複数の~を使用する 22
ディスプレイをミラーリング 22
データレート 14, 44, 47, 49, 52
テキスト
 検索する 20
 テキスト・トラックを追加する 34

 フォントスタイルを指定する 35
 ムービーにテキストを重ねる 35
テクニカルサポート 10

と

透明度 38
特殊効果 45
独立再生形式のムービー 26
トラック 31-37
 オーディオトラックを追加する 32
 切にする 31
 テキスト・トラックを追加する 34

は

バージョン
 最新バージョンの QuickTime を入手する 10
バーチャルリアリティムービー 15
バランス
 オーディオトラックの~を変更する 33
バランスコントロール 18

ひ

ビットレート→「データレート」を参照
ビデオフレーム
 ~のサイズを変更する 45
ビデオマスク 38
ヒント 47

ふ

ファイアウォール 14
ファイルフォーマット 9
ファイルを QuickTime に変換する 28
ファイルを自動的に開く 19
ファイルを開く 9, 11
ファイルを読み込む 9
ファストスタート 47
フィルタ (特殊効果) 45
複数回実行モード 52
複数のムービーを同時に開く 20
ブラウザ
 ~でムービーを再生する 12
フルスクリーンモード 21
フレームレート 18, 27, 44, 49, 52
プレビューアプリケーション 16
プロトコル 14

へ

ヘルプ
 画面上 10
 追加の~を表示する 10

ほ

保護されたメディアファイル 17
ポスターフレーム 40

む

- ムービーコントローラ 41
- ムービーの一部を選択する 29
- ムービーのサイズ
 - 決定する 34
 - 変更する 19, 45
- ムービーのサイズを変更する 37
- ムービーの情報を表示コマンド 18
- ムービーのダウンロード・キャッシュ・サイズスライダ 13
- ムービーを回転させる 37
- ムービーを書き出す 42-53
- ムービーを共有する 28
- ムービーを切り取る 30
- ムービーを繰り返し再生する 20
- ムービーを再生する 11
- ムービーを自動的に再生チェックボックス 13
- ムービーを保存する 26

め

- メール
 - ～経由でムービーを共有する 28
- メディアキー 17
- メモリオプション 23

も

- モニター→「ディスプレイ」を参照

よ

- よく使う項目（お気に入り） 17

り

- リファレンスムービー 13, 26, 48

れ

- レイヤーコントロール 33

ろ

- ロックされたメディアファイル 17